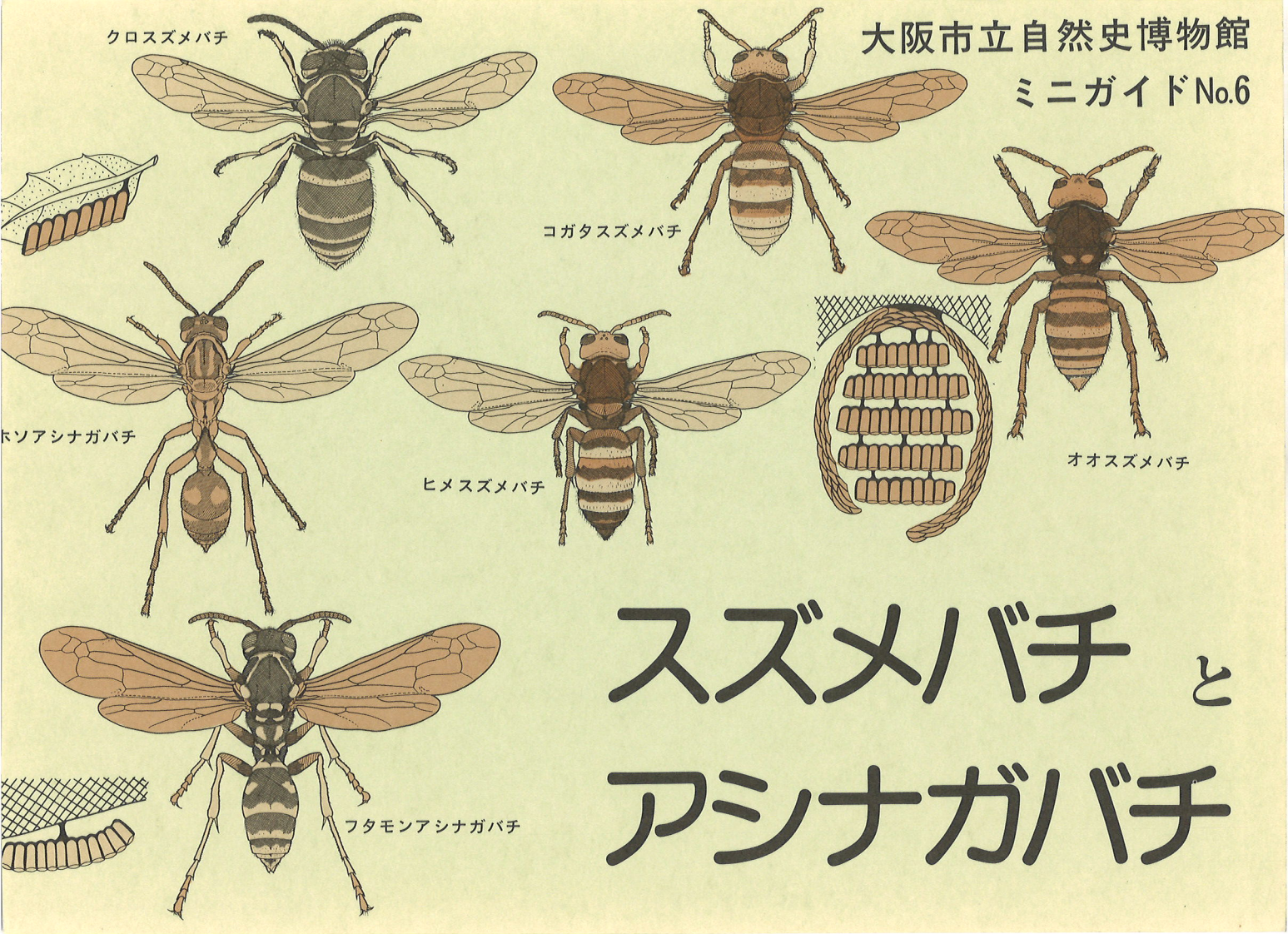
大阪市立自然史博物館

ミニガイドNo.6



スズメバチとアシナガバチ

はじめに

スズメバチやアシナガバチのすみかである低山地で宅地造成がすすみ，ハチになじみのない市民が移り住むことによって，ハチとのトラブルが近ごろふえてきています．残留性の低い農薬が使われだして，ハチがふえたことも原因かもしれません．ハチとヒトは共存できないのでしょうか．一般に恐れられているこれらのハチの種類と習性を知ることによって，かなりトラブルを減らすことができると思います．里山では，昔からハチとヒトはなかよくいっしょに暮らしてきたのですから．

この本には，スズメバチやアシナガバチの種類を自分で調べられるように，西南日本でよくみられる種類の見わけかたや，巣とはたらきバチの全形図をのせました．そして，ハチの巣ができたときの対応の方法などを紹介しています．各種の説明の中にそのハチの過去の採集記録を地名で記してありますので，大阪付近のどういうところにどういうハチがすんでいるかを，知ることもできるでしょう．これからのハチたちとのつきあいに，参考になればさいわいです．

もくじ

スズメバチの生活……1
アシナガバチの生活……2
ハチにさされないためには……3
ハチにおそわれたら……4
ハチにさされたら……5
巣を見つけたら……6
スズメバチの見わけかた……8
アシナガバチの見わけかた……10
オオスズメバチ……12
キイロスズメバチ……14
コガタスズメバチ……16
ヒメスズメバチ……18
モンスズメバチ……20
クロスズメバチ……22
キオビホオナガスズメバチ……24
フタモンアシナガバチ……26
セグロアシナガバチ……28
キアシナガバチ……30
ヤマトアシナガバチ……32
キボシアシナガバチ……34
コアシナガバチ……36
ホソアシナガバチ……38
ハチの種名の索引……40
参考にした本

スズメバチの生活

スズメバチはハチの中でもっとも大きく，社会生活を営(いとな)み，大きな丸い巣(す)をつくります．里山にいくと，人家の軒先(のきさき)にぶらさがったキイロスズメバチの１ｍもある巣をみることができます．スズメバチとは，正式にはスズメバチ科のスズメバチ亜科に属(ぞく)する肉食性のハチの総称(そうしょう)です．それぞれの種類(しゅるい)に女王バチ（メスバチ），はたらきバチ，オスバチがいて，分業(ぶんぎょう)しています（カスト分化）．地方によっては，ドングリバチ（泉州，奈良），クマンバチ，アカバチ，ヤカンバチなどのよび名があります．花粉(かふん)や蜜(みつ)をあつめるハナバチ類の最大種にクマバチがいて，よくまちがわれますが，まったく別のなかまで，クマバチはおさえつけないかぎり，人をさしません．

スズメバチの巣は，何年もつづくミツバチとちがい，１年でおわってしまいます．前年の秋に成虫になったメスバチが４月ごろ越冬から目をさまします．クヌギ，コナラなどの樹液(じゅえき)をすって，５月の中ごろから１匹で巣づくりをはじめます．近くにあるくち木や，生きた木の皮をかじりとり，唾液(だえき)とねりあわせたものが材料です．カサのようなおおいと幼虫のへやを最初10室くらい作り，はたらきバチになる（受精(じゅせい)）卵をうみつけ，保温などの世話をします．このころのスズメバチは危険(きけん)性(せい)が少なく，巣に近づいてもさしませんし，幼虫をるす中にアリにうばわれることもあります．やがてはたらきバチが羽化(うか)してきて，巣をどんどん大きくし，外敵にたいして防衛をはじめますので，危険性がします．ほかの昆虫やクモなどの小さな動物，樹液，アブラムシの甘露，くだものの汁，花の蜜などを

あつめてきて，幼虫にあたえます．そのかわり，幼虫から唾液性の分泌物をもらってえさにします．女王は産卵に専念します．そして巣が最大になる９～11月に来年の女王の候補であるメスバチとそれと交尾するオスバチがうまれ，巣がおわってしまいます．オスはアンテナの節の数が13節で，メスよりも１節おおく，腹の先に針がありません．越冬場所へ移動中のメスをとらえて交尾します．巣のへや数がおおく，シダクロスズメバチでは，18,000個のへやがつくられることもあります．巣におおいがあるので，秋おそくまで活動できます．世界的にみると北の方で種類がおおく，日本に３属16種いて，種類によって巣をつくる場所と巣の形がちがいます．攻撃性はヒメスズメバチ＜コガタ＜モン＜キイロ＜オオの順につよいと言われています．

アシナガバチの生活

アシナガバチはスズメバチに近いなかまですので，生活のしかたも似ています．ここではスズメバチにみられない特徴を中心に紹介します．スズメバチにくらべて小さく，長い後あしをだらりと下げて飛ぶのですぐアシナガバチとわかります．スズメバチよりも早い４～５月に，人家のまわりで巣をつくりはじめます．古い板べい，風化した木材，枯れ草の茎などから繊維をかじりとり，唾液とねりあわせてパルプにするので，かなり丈夫です．巣はハスの実を逆さにした形でおおいがなく，メスバチは保温をしません．幼虫のえさは，畑や庭の木にいる青虫や毛虫です．ハチは作物や庭木の害虫を退治してくれる益虫なのです．１匹のハチが１日に青虫を４匹つかまえてえさにした記録があります．はたらきバチ

の数もスズメバチにくらべて少なく，さされたときの痛さも弱く，それほど危険はありません．巣も小さく，フタモンアシナガバチでへや数が1,100をこえるものが最大のようです．７～８月にメスバチが羽化します．夏のおわりに古い女王バチが死に，はたらきバチが卵を産むようになります．その（未受精）卵がオスバチになります．オスとメスは１～３か月の間，はたらきバチに巣のうえでやしなわれます．９月にはときに天敵のヒメスズメバチが巣にあらわれ，幼虫をころして，体液をすってえさにします．ほかにオオスズメバチ，モンスズメバチ，コガタスズメバチ，アリなどが巣の幼虫をねらいます．９月に巣はおわり，オスバチが集団で石の上などに待機して，通りかかるメスと交尾します．熱帯起源と考えられ，日本に３属10種います．

ハチにさされないためには

ハチがさすのは，ほとんどが巣をまもるためです．家のまわりに巣をつくるコガタスズメバチ，キイロスズメバチ，セグロアシナガバチを見かけたら，はやめに巣のありかをみつけ，巣にちかよったり，ハチをおどかさないように気をつけます．これらのハチは，こちらからおどかさないかぎり，攻撃してくることは普通ありません．山里などでは，秋にこれらのハチの巣をオオスズメバチが攻撃し，そのためにハチが興奮してちかづくものをなんでも攻撃することがありますので，注意が必要です．

世界でもっとも大きく，攻撃性のつよいオオスズメバチは，山地の土中に巣をつくり，巣の近くを通ったり，地面に振動をくわえるだけで飛びだして攻撃する危険なハチです．

ハイキング，遠足，キノコ取りなどで，人のあまり行かない山に，夏から秋にかけて集団ではいるときは，事前の下見で，巣が道のちかくにないかたしかめたほうが安全です．とくに遠足などで子供たちが集団で巣のちかくをとおりすぎると，ハチの興奮がじょじょにたかまり，うしろの列の子供がおそわれることがあります．また，スズメバチの巣に石をなげたり，棒でつついたりすると，あとから通りかかった人が攻撃されるおそれがあるので，注意しましょう．

ハチは，動きのある腕や手，感覚器官のあつまっている頭や顔，黒色の目や頭髪をねらってさす傾向があります．ハチにさされるおそれがあれば，頭や腕をなにかでおおい，白色，銀色，黄色，緑色の衣服をつけ，黒色と青色の服やもちもの，ひらひらとしたものや毛皮をさけます．巣にたいして横方向のはやい動きに敏感なので，巣を発見したら，ゆっくりと巣からまっすぐ遠ざかることがたいせつです．

ハチにおそわれたら

人がハチの巣にちかづくと，(1)巣の表面にぞろぞろ出てくる警戒行動，(2)まわりをまとわりつくように飛びかう威嚇，(3)警報フェロモンを放出しながら，一匹がおそいかかる（巣への間接的刺激にたいする）攻撃，(4)全員で相手におそいかかる（巣への直接的刺激にたいする）攻撃，の順に巣を防衛します．(2)と思われる行動に気づいたら，ゆっくりと巣からはなれます．気づくのがおくれ，ハチが攻撃してきたときには，不意をつかれることがおおいので，攻撃をかわすのは難し

いようです．最初の攻撃は弾丸のようにぶつかってきてそのままさすやりかたです．さされたら，一目散に巣からはなれます．巣から10mくらいはなれると攻撃は弱まります．遠足などで子供たちがおそわれたときは，むかってくるハチに殺虫剤をスプレーして攻撃をへらすこともできます．家庭用のピレスロイド系のスプレー式殺虫剤にたいして，ハチはカやハエよりも弱いのです．

ハチにさされたら

巣にいたずらされたり，攻撃をうけたときには，はたらきバチは巣の中や外に毒針の先から毒液を霧状に放出して仲間にしらせ（警報フェロモン），敵におそいかかります．まず大あごでしっかり相手にかみつき，あしでつかまり，腹をまげてなんどもさして毒液を注入します．針でさされたときの痛みに，毒液の中のハチ毒キニンなどの発痛物質による痛みがつづきます．こういうときには，手でハチをとりはらいながら，一目散にその場からにげだす方がよいでしょう．にげおくれると攻撃にくわわるハチの数がまします．ハチにさされて死ぬ人がときどきいます．これは毒によるものではなく，ほとんどが毒液の中にふくまれるタンパク質にたいする，その人自身の免疫反応が原因のアレルギーによるものです．スズメバチとアシナガバチにさされることにより，アレルギーをおこす可能性のある人は，10人に1人の割合で，そういう人は2回目にさされたときに，10分以内に全身の皮しん，呼吸困難，アナフィラキーショックをおこすことが多いようです．そういった経験のある人はさされない注意が必要です．

薬としては，昔からアンモニア，アロエのしるなどがきくと言われていますが，特効薬はないようです．ささされたらすぐ，傷口の開いているうちに，きれいな水で傷口を洗いひやしながら，手足の場合，心臓にちかい方をヒモなどでしばります（数分後にゆるめる）．手持ちの抗ヒスタミン剤などをぬり，アレルギー体質のおそれのある人はできるだけはやく医療機関に行くのがたいせつです．

オオスズメバチなどは，直接させないと毒液を敵にふきかけることがあります．空中に霧のようにふきだされた毒液が目にはいると，激痛を感じ，量が多いと角膜をおかされて失明することがあります．目にはいったら，すぐ水でよく洗い流し，眼科医に急いでみてもらわなければなりません．

巣を見つけたら

まず遠くから巣の形，ハチの種類と数をしらべます．秋におわってしまうし，人がいるのを承知でつくられていますので，放っておいても危険のない場合がほとんどです．家のまわりの害虫退治もひきうけてくれますから，よい観察の機会にします．どうしてもとらなければならないときは，ハチの数が少ないうちにとりかかります．最近では，ハチの巣除去のサービスをやっている自治体がありますので，といあわせてみたらよいでしょう．スズメバチのできたての巣（小さくておおいがある）やアシナガバチの巣（おおいがない）であれば，自分でとることもできますが，ある程度の危険がともないます．

ハチの巣をとるのは，つぎの手順で行います．①薬局で売っているスプレー式やくん煙

式のピレスロイド系殺虫剤を用意する．巣を入れるじょうぶで大きなポリ袋，巣をとるための剪定バサミ，巣の口につめる脱脂綿も必要．②日暮れて2－3時間後に，作業衣のうえに雨ガッパを着こみ，手袋，手ぬぐい，マスクなどでどこをさされてもよいように肌をおおう．③赤いフィルターのついた懐中電灯をもち，巣から2～3mまで近づき，懐中電灯のフィルターをはずして，巣を照らしながら地面などにおく．④低いところの巣の場合，風上から殺虫剤を巣の入り口や外にいるハチめがけてスプレーし，動かなくなるまで続ける．⑤高いところにある巣では，くんえん式の殺虫剤の缶を長い棒にしばりつけ，それに点火して，巣の入り口に近づけ，煙を巣の中に数十秒入れる．⑥巣をはなれて飛ぶハチは明るいところに行く習性があるので，懐中電灯や近くの窓のあかりに集まったハチに殺虫剤をスプレーして殺す．⑦巣の入り口に脱脂綿をつめて，ポリ袋をかぶせてとりさる．⑧とった巣はすぐ土中に埋める．⑨巣の下にころがっているハチには，完全に死ぬまで，素手でさわってはいけない．キイロスズメバチの大きな巣では，朝に帰ってくるはたらきバチもいるので，夜になったら殺虫剤をかけて殺す．

近所に子供がいて，いたずらしてさされると危ないので，巣をとりたいという大人が多いですが，子供たちはあんがいハチにさされても平気です．かえって，前にハチにさされた経験のある大人がアレルギーなどで死ぬ危険性があるのです．

同じ生命をもつ動物ですから，皆ごろしばかり考えず，なるべくいっしょに楽しく暮らしたいものです．

図1：スズメバチの見わけかた（1）

スズメバチの特徴

1．腹部がピストルのたまの形．

2．腹部の第1節の背なかが横からみると直角にもりあがっている．

3．巣におおいがあってまるい．

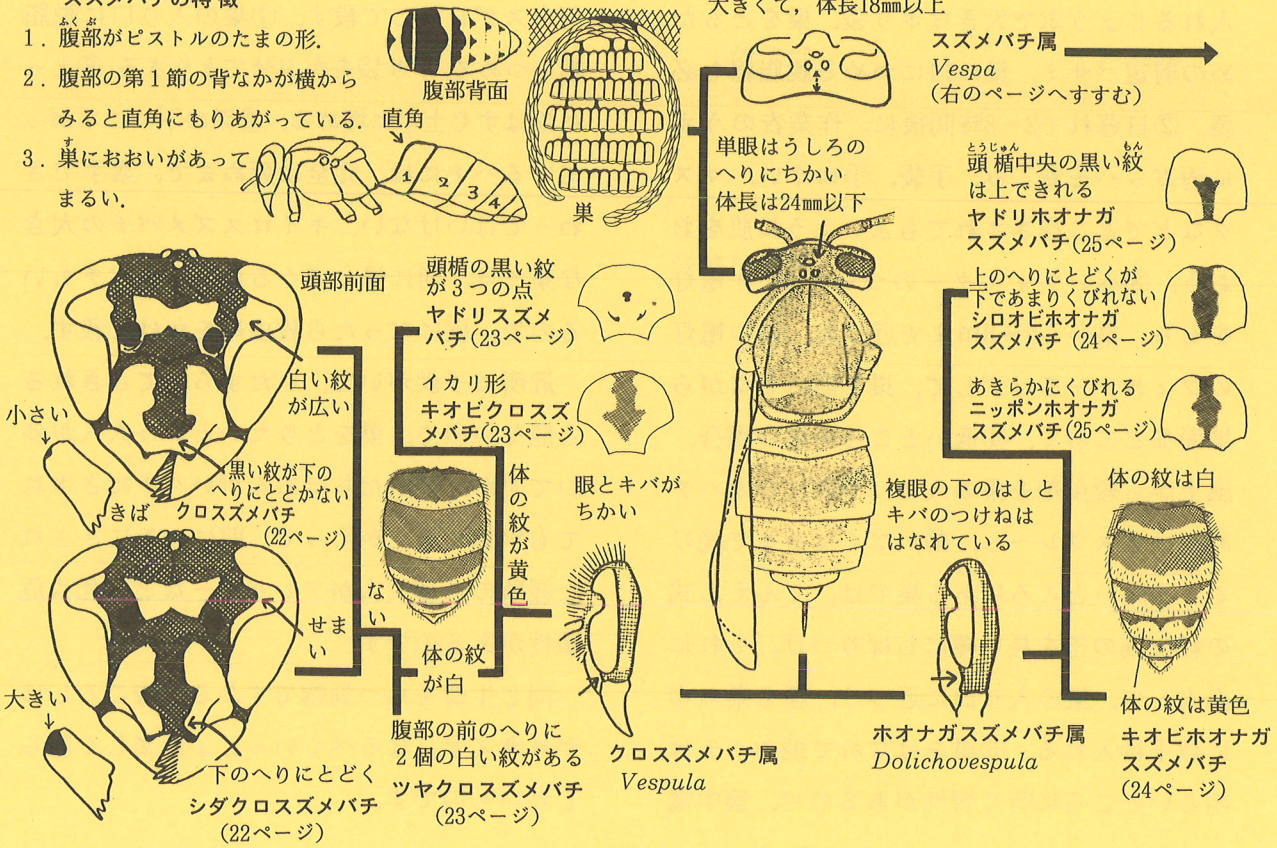


図２：スズメバチの見わけかた（２）

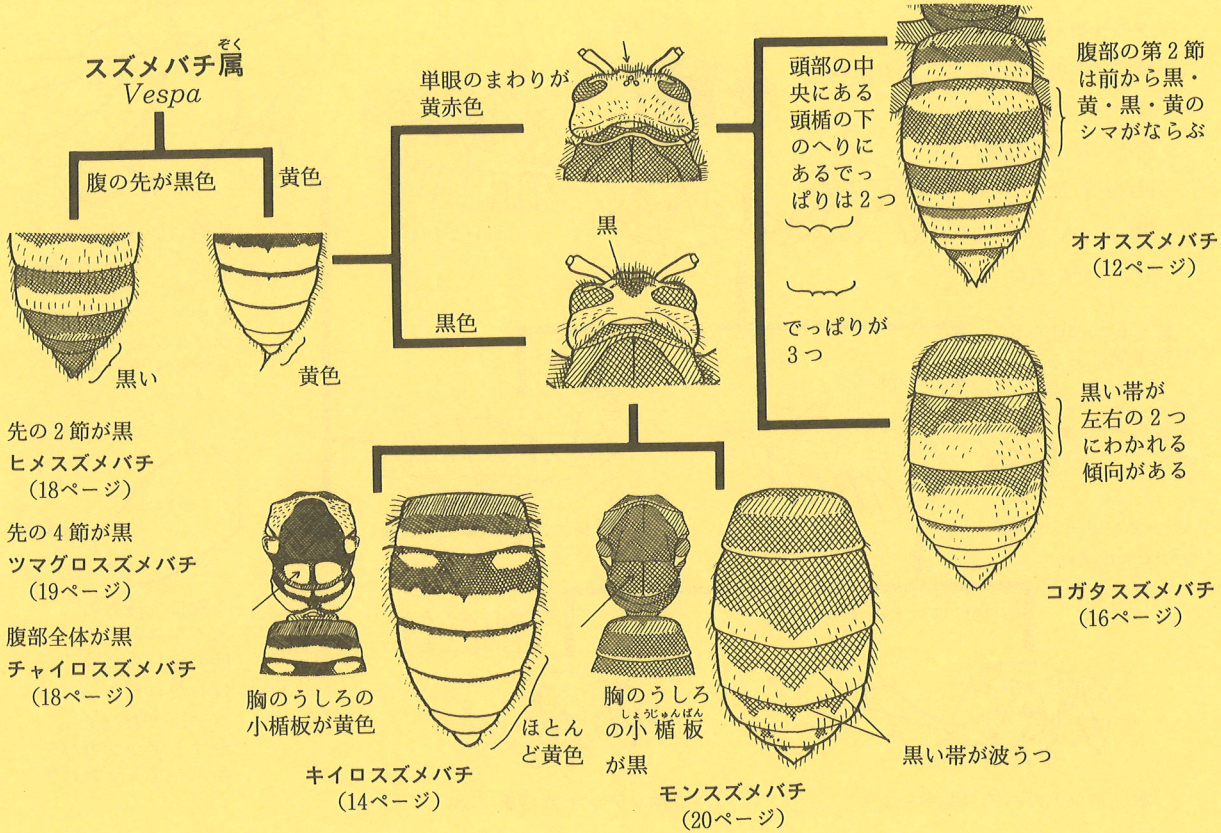


図３：アシナガバチの見わけかた（１）

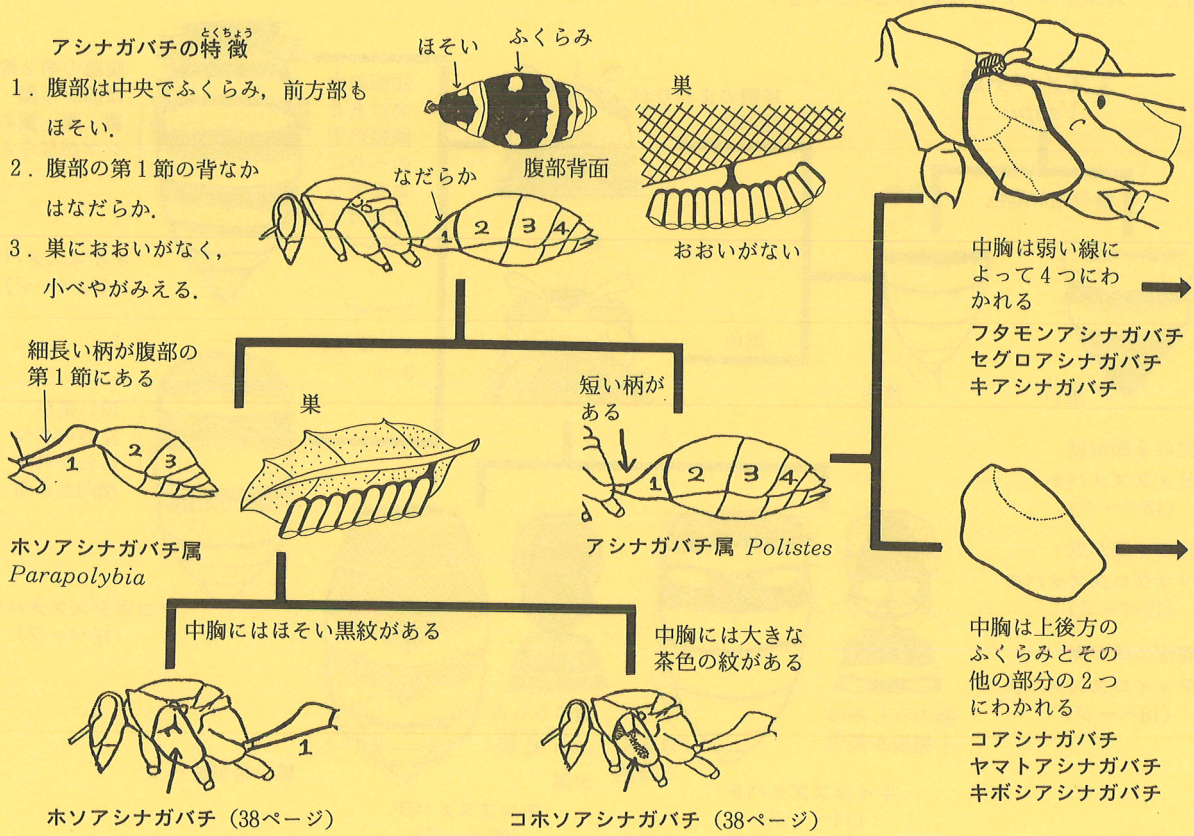
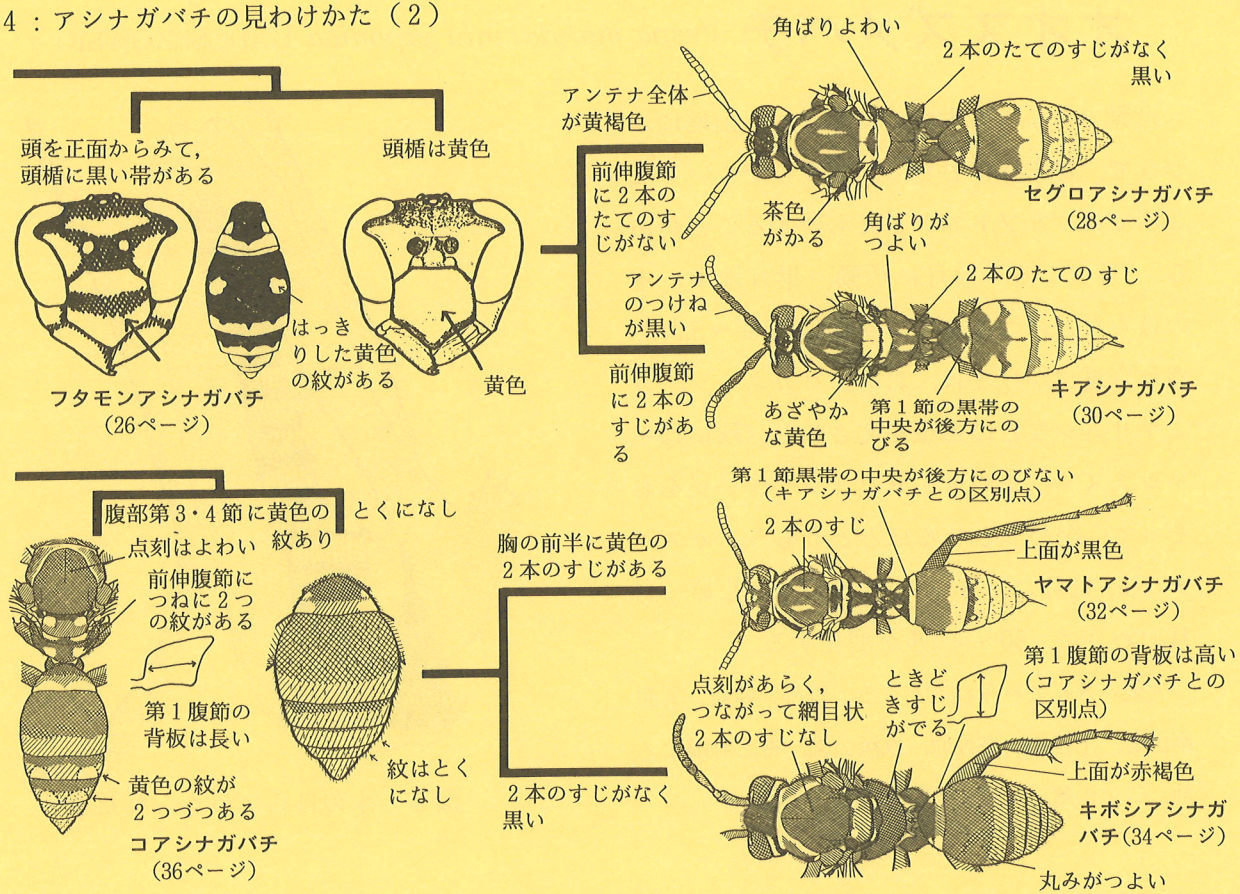


図4：アシナガバチの見わけかた（2）



オオスズメバチ *Vespa mandarinia japonica* RADOSZKOWSKI

世界でもっとも大きくてつよい．山地にふつうで，雑木林におおく，樹液のでているところでは，カブトムシさえもゆずることがある．5月中ごろ～11月に活動．巣は地中，木のほらなどにつくる．へや数は2,500～5,000．春から夏にかけては，おもにコガネムシ，カミキリムシなどの昆虫をえさにし，秋にはキイロスズメバチやセイヨウミツバチの巣をおそって，全めつさせるほどどうもう．オスバチは9～11月に，メスバチは10月はじめ～11月おわりに，50～600匹が羽化する．

大阪ふきんでみられるところ：笹部，妙見，箕面高山道，千里山，奈佐原，枚岡公園，香芝町畑上ノ池，二上山麓，三日市下村，天見，流谷．

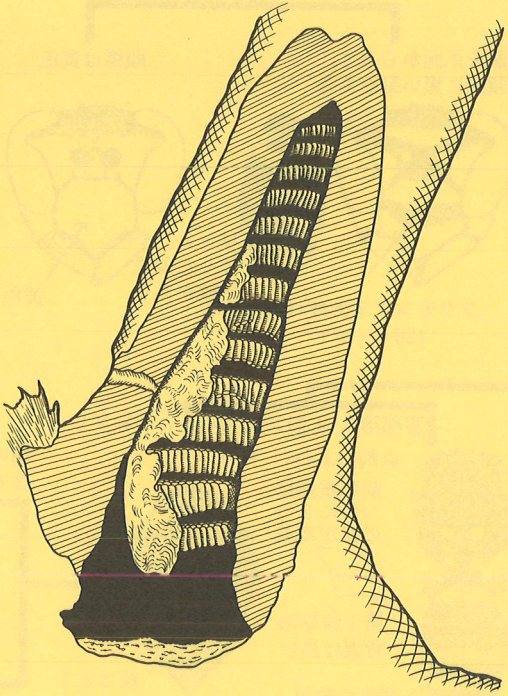
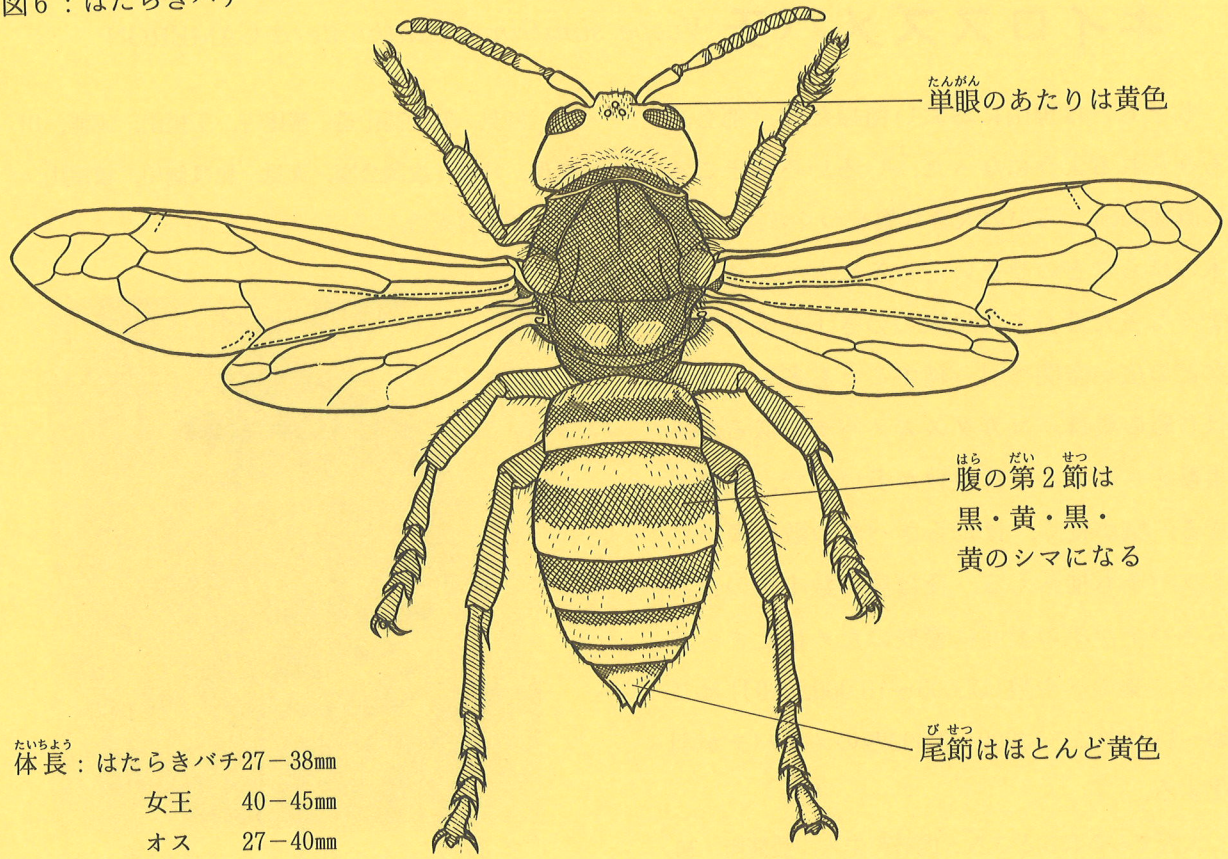


図５：木のほらにつくられた巣

図6：はたらきバチ



体長：はたらきバチ27－38㎜
女王　40－45㎜
オス　27－40㎜

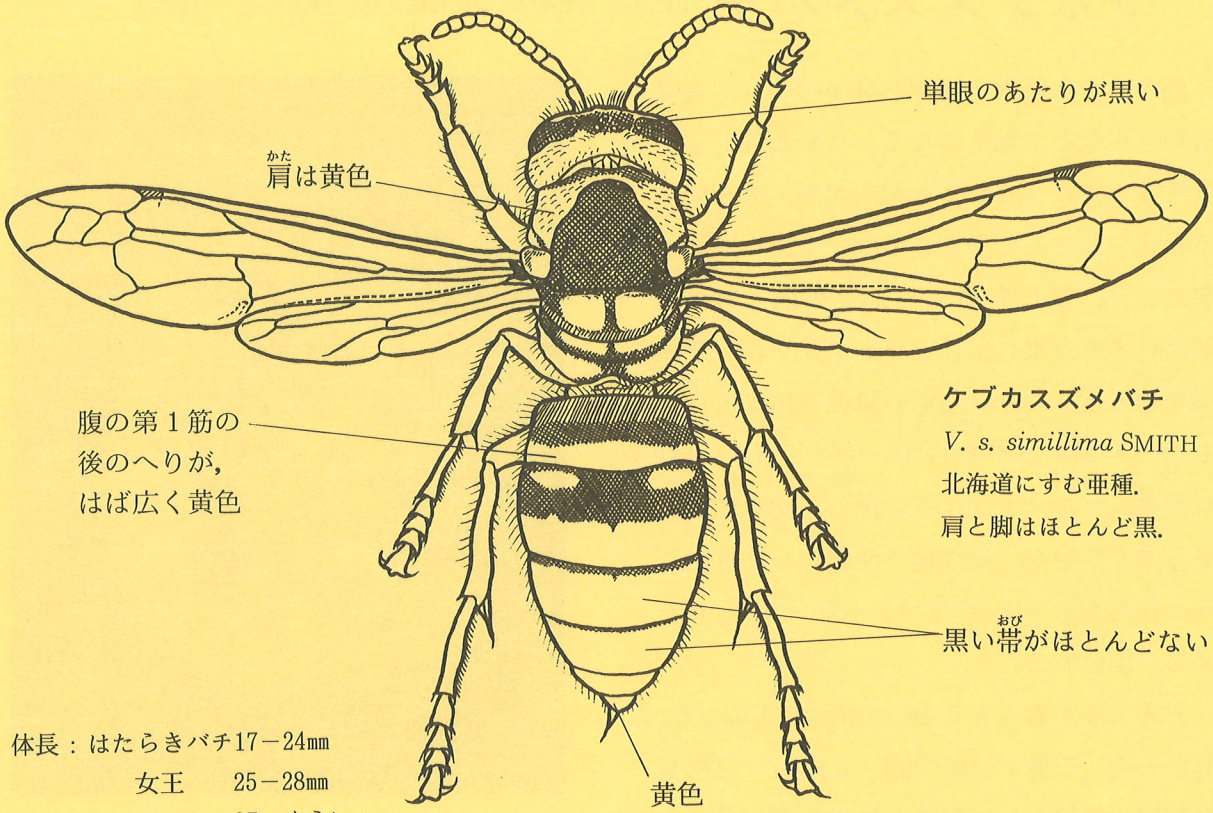
キイロスズメバチ *Vespa simillima xanthoptera* CAMERON

もともとは里山におおい種類だが，都会でもみられるようになった．いろいろなところに直径80㎝くらいの大きな巣をつくる．土中，木のほらなどのせまいところにもつくり，せまくなった8月ころに家ののき下や天井うらなどの広い空間へ引っ越すことも多い．できはじめの巣は，コガタスズメバチに似るが，巣盤をささえる支柱の数が多いので，区別できる．気が荒く，はたらきバチの数も多い．ミツバチも捕らえる．夜は昼の数十倍のはたらきバチが巣の表面に警戒のためにとまっている．巣のへや数は2,000～10,000．10月はじめ～11月中ごろに200～2,000匹のメスバチが羽化する．

大阪でみられるところ：能勢町中人，豊能町，初谷，妙見，箕面高山道，勝尾寺，千里山，田能，川久保，八幡，枚岡公園，天見，和泉側川，槙尾山，犬鳴不動谷入口．

図7：キイロスズメバチの巣

図8：キイロスズメバチのはたらきバチ



ケブカスズメバチ

V. s. simillima SMITH

北海道にすむ亜種.

肩と脚はほとんど黒.

体長：はたらきバチ17－24mm

女王　25－28mm

オス　27mmくらい

コガタスズメバチ *Vespa analis insularis* DALLA TORRE

庭の木や街路樹（常緑の木が多い），人家ののき下などに巣をつくる．はじめはトックリをさかさにふせたような形だが，大きくなると人の頭ほどの大きさのフットボール形の巣になり，横に直径１～２㎝の出入口が１個だけある．まれにはヤマトアシナガバチの巣をのっとったり，前年の巣を利用することもある．巣のへや数は300～800．５月～11月に活動．ハエ，アブなどを狩り，攻撃性はあまり強くないが，毒性はやや強い．９月中ごろ～10月おわりにメスバチ（20～150匹）とオスが羽化する．

大阪でみられるところ：市街地にもふつう．箕面公園，田能，枚岡公園，金剛山，河内長野高向，光滝寺，光明池，長居公園（1975）．

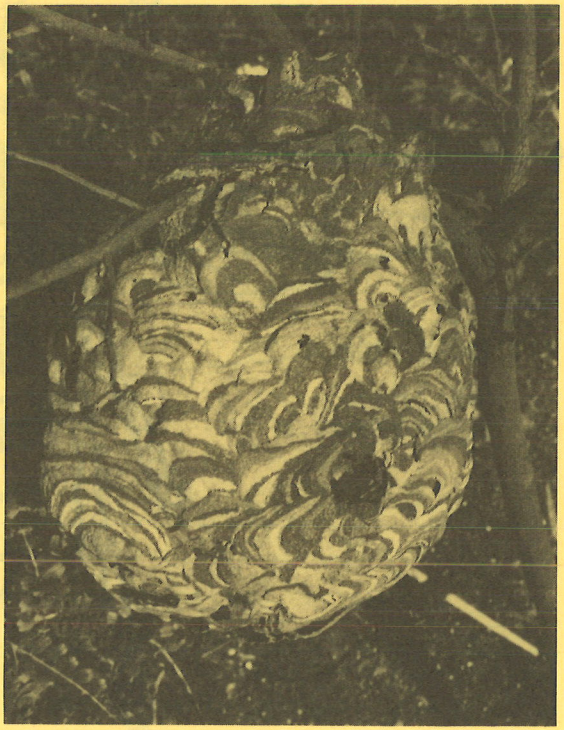
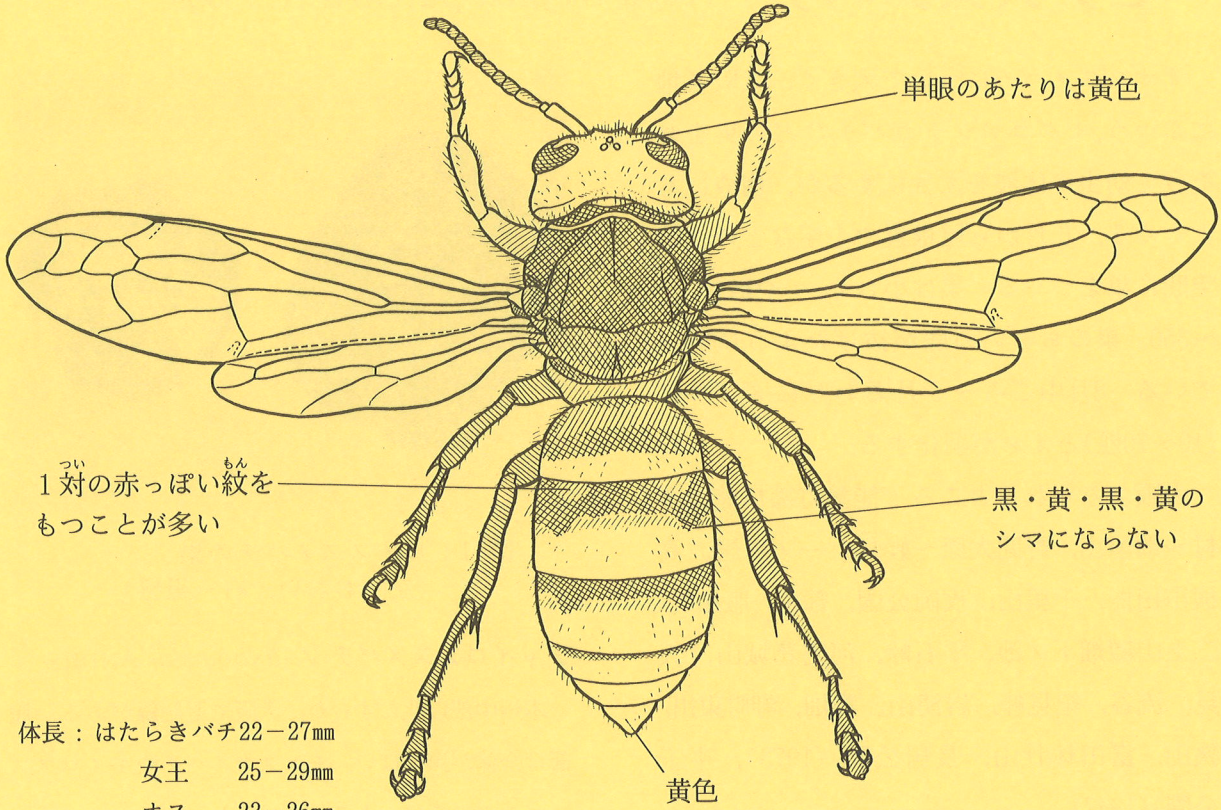


図９：木の枝につくられた巣

図10：はたらきバチ



体長：はたらきバチ22－27㎜
女王　25－29㎜
オス　23－26㎜

ヒメスズメバチ *Vespa tropica pulchra* BUYSSON

オオスズメバチについで大きく，大阪各地にふつう．セグロアシナガバチなどの巣をおそって幼虫の体液をえさにするが，樹液にもよくくる．6月から屋根裏や小屋などの閉鎖空間に巣をつくる．巣は小さく，へや数は100～350．巣のおおいの底が抜けたように開いている．8月中ごろ～9月おわりにメスバチ(10～70匹)とオスが羽化する．

大阪でみられるところ：能勢町篠口峠，上村～歌垣山，野間大原～妙見，一ノ鳥居，高槻市田能，千里山，枚岡公園，額田，服部川，二上山麓畑下ノ池，平石峠，河内葛城山，天見，流谷，紀見峠，岩湧山，葛畑，岬町東川，狭山，富田林甘山，長居公園（1973），生玉公園（1947）．

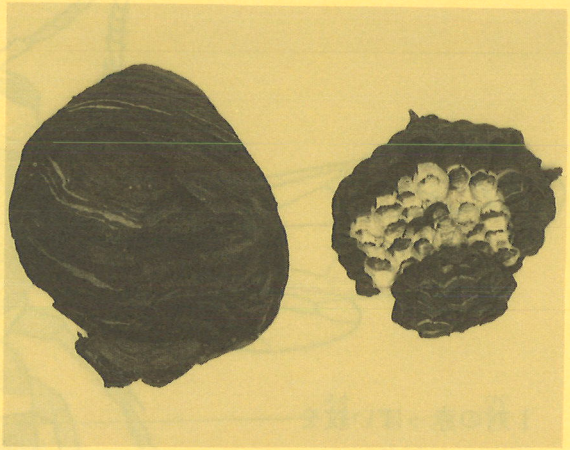
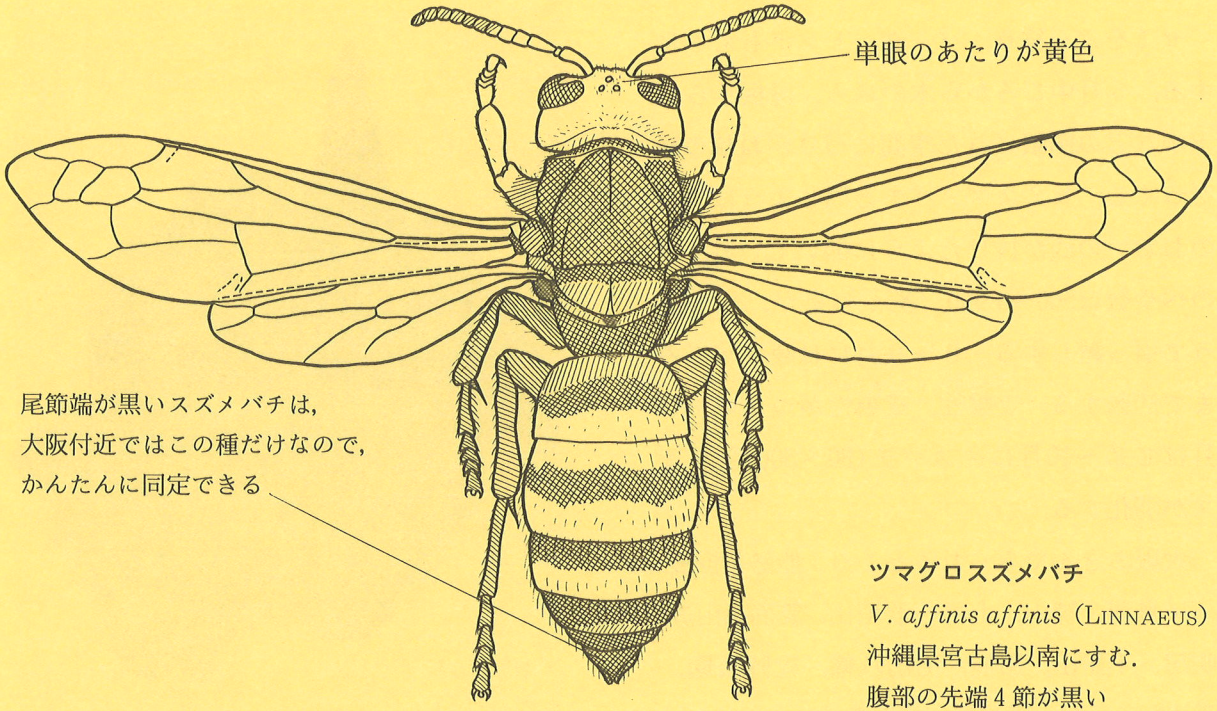


図11：ヒメスズメバチの巣
（左－おおい，右－巣盤）

チャイロスズメバチ *V. dybowskii* ANDRE

本州中部以北にすむが，大阪でも記録がある．腹部は全体が黒っぽい．モンスズメバチやキイロスズメバチの巣をのっとる．

図12：ヒメスズメバチのはたらきバチ



ツマグロスズメバチ

V. affinis affinis (LINNAEUS)

沖縄県宮古島以南にすむ．

腹部の先端４節が黒い

体長：はたらきバチ，女王，
　　オスとも　24－37mm

モンスズメバチ　*Vespa crabro flavofasciata* CAMERON

セミをよく狩り，バッタ，トンボもえさにする．5月中ごろから木のほら，屋根うら，土中などの閉鎖された空間につりがね状の巣をつくる．ヒメスズメバチと同じように，巣のおおいの底が抜けたように開いている．巣のへや数は500～4,500．多くの巣が，とちゅうで引っ越しする．8～9月には夜9時ごろまで活動する．攻撃性，威嚇性がつよい．9月はじめ～10月にメスバチ(30～500匹)とオスが羽化する．

大阪ふきんでみられるところ：能勢花折橋，一ノ鳥居，神山，上村～歌垣山，箕面高山道，吹田，千里山，田能，男山八幡，枚岡公園，王寺町，千早～西恩寺．最近各地で少なくなった．

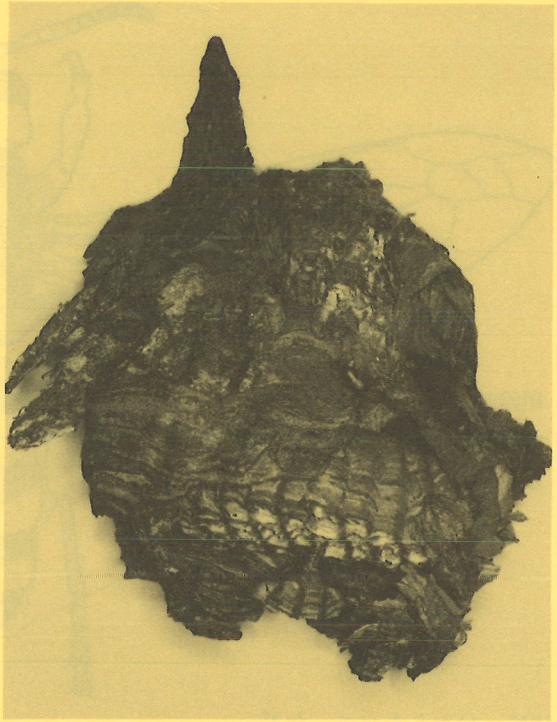
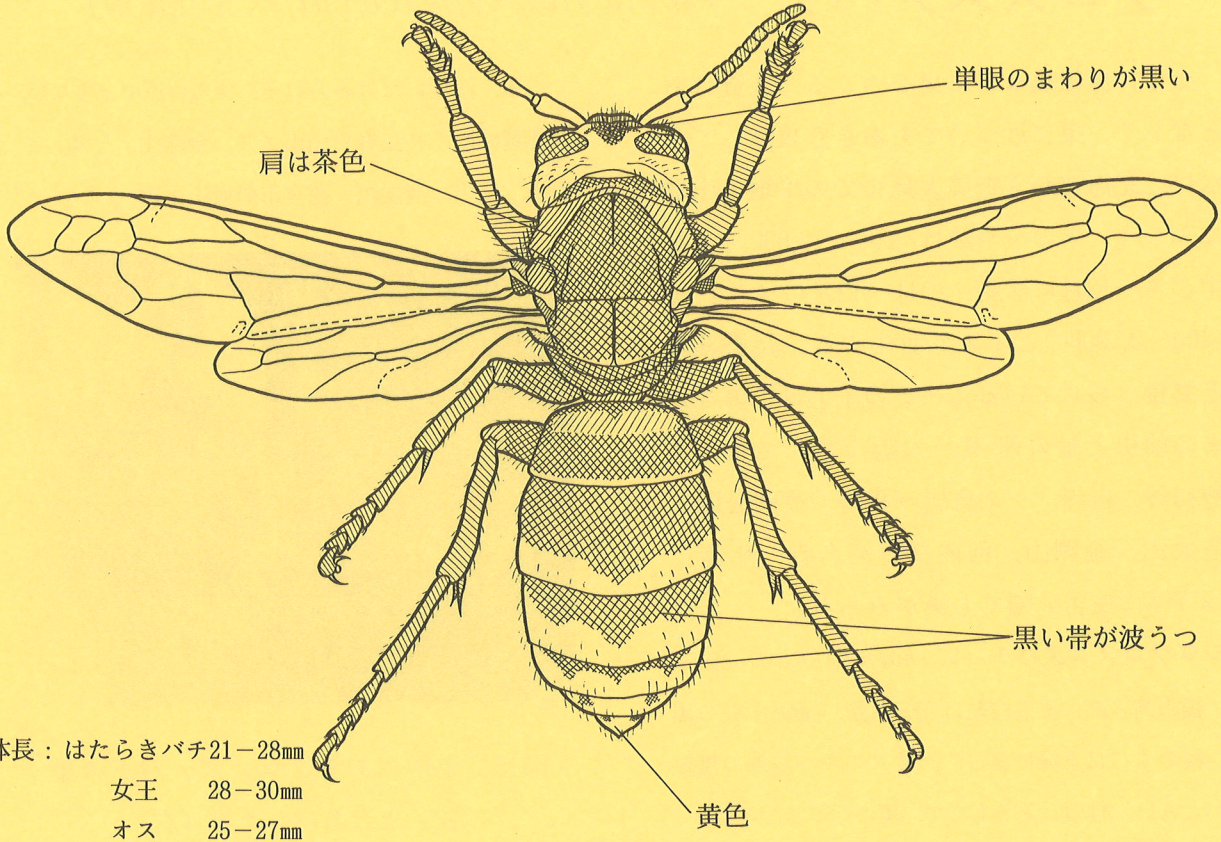


図13：巣

図14：はたらきバチ



体長：はたらきバチ21－28㎜
女王　28－30㎜
オス　25－27㎜

クロスズメバチ *Vespula flaviceps lewisii* (CAMERON)

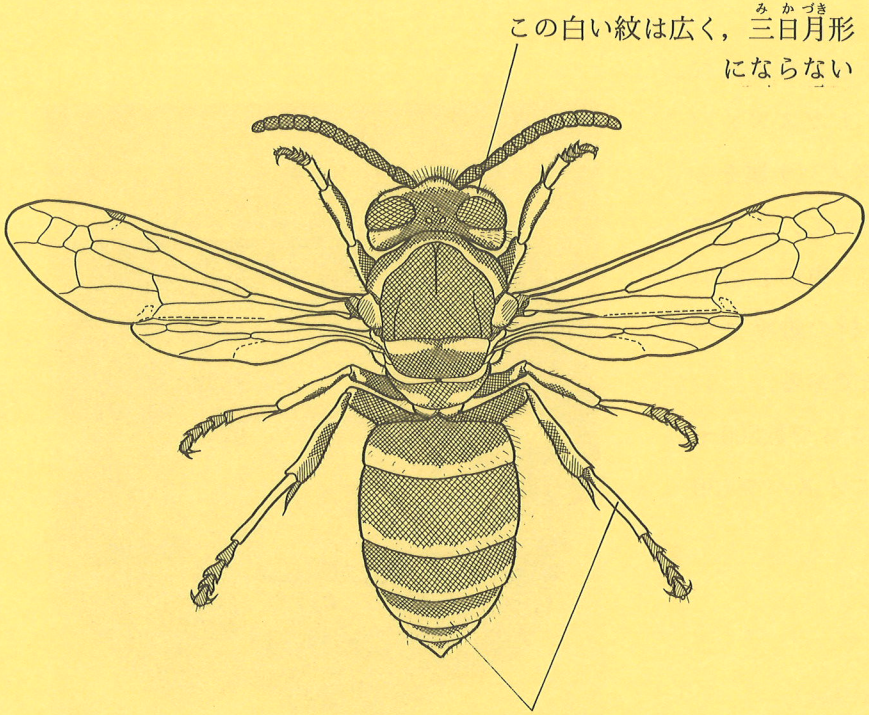
土中，屋根裏などに巣をつくる．性質はおとなしく，巣に近づいてもあまり攻撃してこない．北海道から奄美大島までの平地・山地にふつう．巣のへや数は3,000～12,000．4月中ごろ～12月に活動．10月～12月にメスバチ(400～2,500匹)とオスが羽化する．長野県などで食べられている「ハチの子」はこのなかまの幼虫と蛹の佃煮(つくだに)．大阪ふきんでは，能勢初谷，吉川，一ノ鳥居～平野，枚岡公園，信太山，金剛山，河内長野河合寺，牛滝，1977年に長居公園でも巣がみられた．

シダクロスズメバチ *V. shidai* ISHIKAWA et al.

複眼湾入部にそう白紋は三日月形．頭楯中央の黒い縦のすじは下縁にとどく．オスのキバ基部の黒紋が大きい．性質はどうもうで，巣に近づいたらおそってくる．山地にだけみられる．大阪付近では少ない．京都鷲峰山，奈良春日山市ノ井，金剛山，牛滝，三石山，仁川，清渓橋，西宮市船坂川下田．

図15：土中にあるクロスズメバチの巣（左）とほり出した巣（右）

図16：クロスズメバチのはたらきバチ



体長：はたらきバチ10－12㎜
女王　15－16㎜
オス　12－14㎜

ツヤクロスズメバチ

V. schrenckii (RADOSZKOWSKI)

北海道の平地と本州・四国の山地にすむ．第1腹節の前縁に白い紋が2個ある．

キオビクロスズメバチ

V. vulgaris (LINNAEUS)

北海道と本州中部以北の山岳地帯にすむ．体に黄色の斑紋がある．

ヤドリスズメバチ

V. austriaca (PANZER)

本州と北海道の山地にすむ．体の斑紋は黄色．はたらきバチがおらず，ツヤクロスズメバチの巣に寄生．

キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media* (RETZIUS)

このなかまは，キバが複眼からかなりはなれてつき，頬が長いので，ホオナガスズメバチとよばれている．一見クロスズメバチ属そっくりの種がおおい．日本に4種いて，すべて寒地性である．大阪府では未知．巣のおおいは，さまざまな植物の茎，葉，材の繊維でできていて，和紙そっくりで丈夫である．

木の枝，草むら，軒下などにへや数500～1,500の巣をつくる．8～9月にメスバチ(30～150匹)とオスが羽化する．

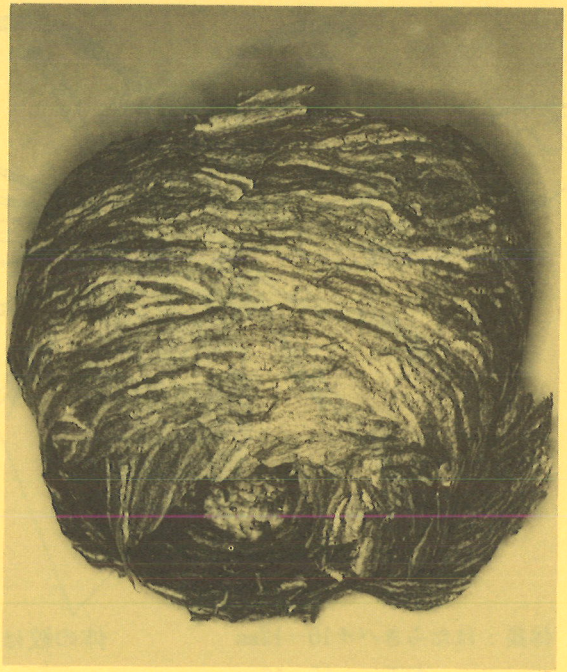


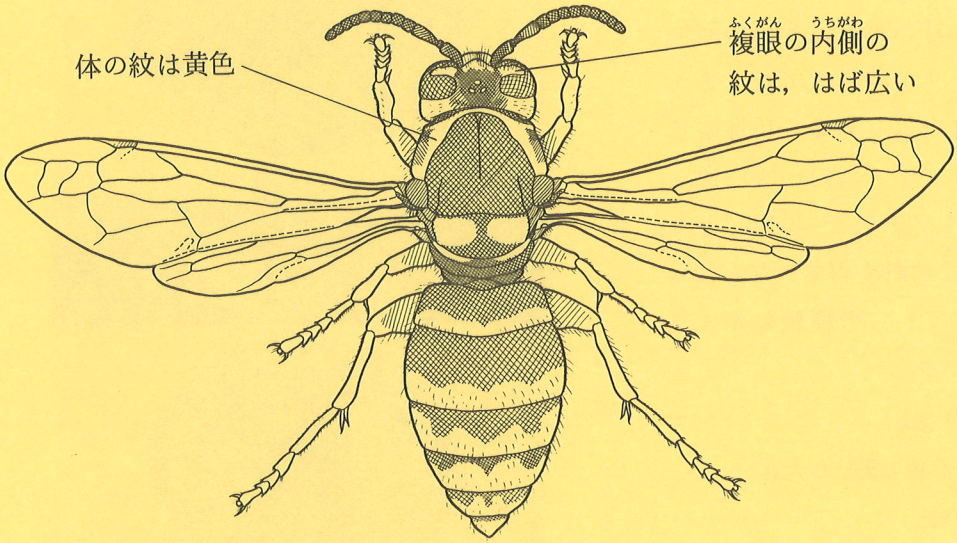
図17：キオビホオナガスズメバチの巣

シロオビホオナガスズメバチ

D. norvegicoides pacifica (BIRULA)

体の紋は白．頭楯中央の黒紋は下でくびれない．四国以北の500m以上の山地にすむ．

図18：キオビホオナガスズメバチのはたらきバチ



体長：はたらきバチ14－16㎜
　　女王　　19－22㎜
　　オス　　19㎜くらい

ヤドリホオナガ
スズメバチ

D. adulterina
montivaga YAMANE

体の紋は白．頭楯中央の黒紋は上でとぎれる．本州以北の山岳地帯にすむ．ニッポンホオナガスズメバチに寄生する．

ニッポンホオナガ
スズメバチ

D. saxonica
nipponica YAMANE

体の紋は白．頭楯中央の黒紋は下でくびれる．北海道，本州？にすむ．

フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis antennalis* PEREZ

平地にいちばん多く，河原をこのみ，軒や木の枝に横向きの巣をつくることが多い．大阪市内でもふつうで，4月おわりに淀川の河原のコンクリートブロックのすきまでたくさんのメスバチが巣づくりをはじめる．10月中ごろまで活動．まゆのキャップは白～灰白色．8月～9月中ごろにメスバチ（10～400匹）とオスが羽化する．秋おそくに軒や塀でひなたぼっこしているのは，たいていこの種類のオス．

キイロフタモンアシナガバチ

P. c. chinensis (FABRICIUS)

沖縄にすむ亜種．黄色と赤色の斑紋が大きい．

トガリフタモンアシナガバチ

P. riparius YAMANE et YAMANE

北海道にすむ．大あごと第1腹節背板の側面に黄斑がない．まゆのキャップは黒色．

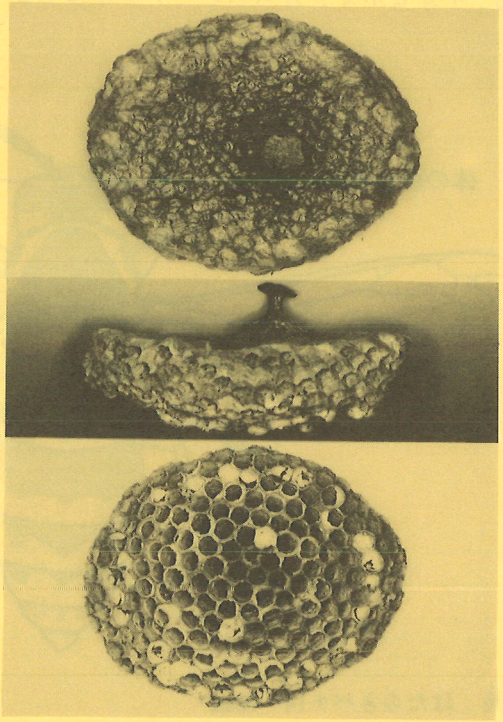
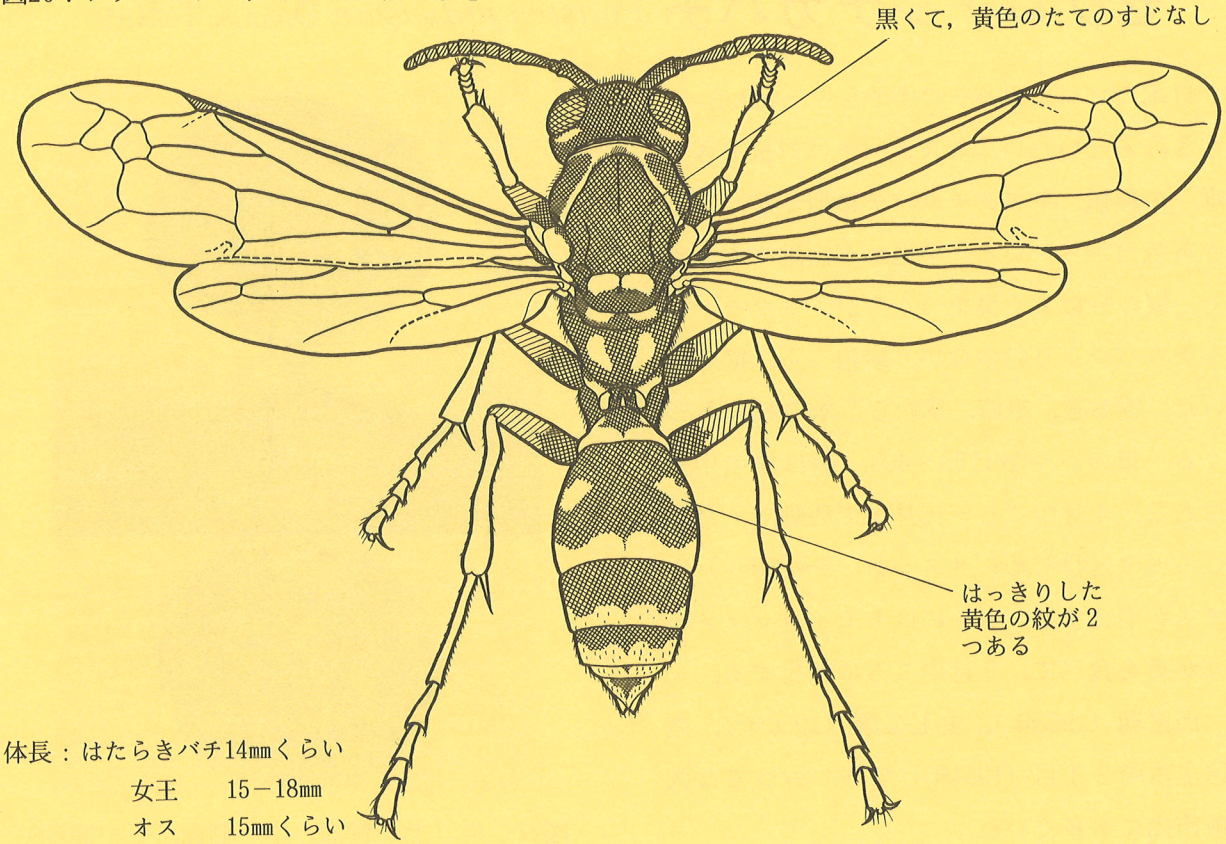


図19：フタモンアシナガバチの巣
（上－背面，中－側面，下－腹面）

図20：フタモンアシナガバチのはたらきバチ



体長：はたらきバチ14㎜くらい
女王　15－18㎜
オス　15㎜くらい

セグロアシナガバチ *Polistes jadwigae* DALLA TORRE

日本のアシナガバチの中でもっとも大きく，ささされるといたい．スズメバチに対抗できる唯一の種類．キアシナガバチに似るが，より赤茶色がかっている．平地から山地にふつうで，家の軒によく巣をつくるが，フタモンアシナガバチよりは少ない．屋根うら，壁のあいだ，物おき，車庫，草むら，木の枝にもつくる．巣のへや数は50～400．柄は巣の中央にある．4月中ごろ～10月まで活動．7月中ごろ～9月はじめにメスバチ（5～250匹）とオスが羽化する．ときにはモモイロシマメイガが巣を食べて，9月中ごろに羽化する．

西区靱（1958年），生玉公園（1956年），南区上汐町2丁目（1954年）など，かつては大阪市内にも多くいた．

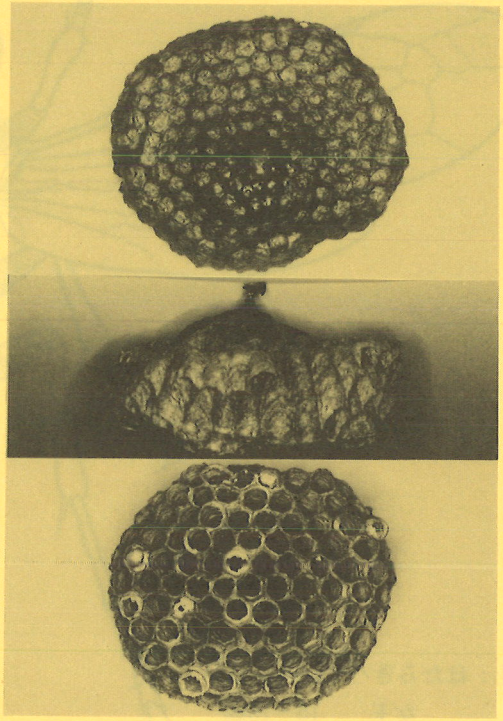
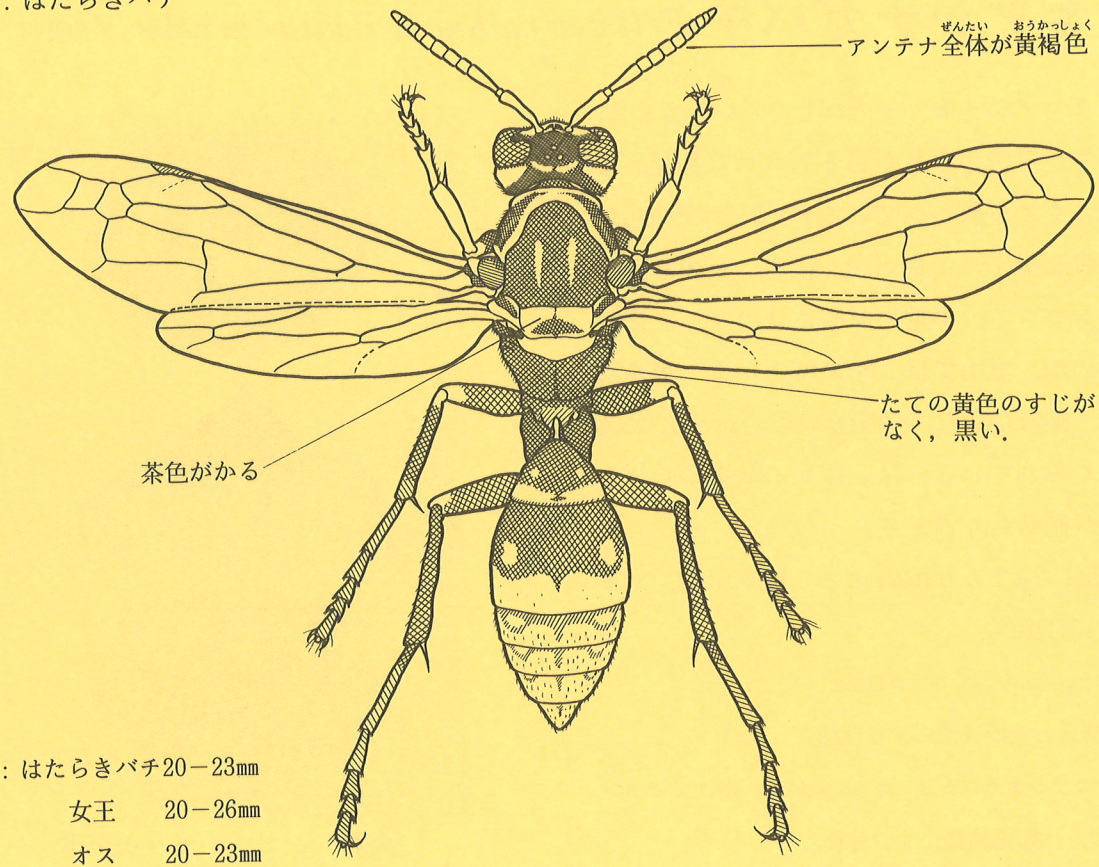


図21：巣（上－背面，中－側面，下－腹面）

図22：はたらきバチ



体長：はたらきバチ20－23㎜
女王　20－26㎜
オス　20－23㎜

キアシナガバチ *Polistes rothneyi iwatai* van der VECHT

セグロアシナガバチと同じくらい大きくて，あざやかな黄色の紋があるきれいな種類．少し小さくて斑紋が似ているヤマトとの区別は，第1腹節黒帯の中央が細く後方へ突出することでもできる．平地や河原には少なく，山地に多いが，里山では人家の軒下によく巣をつくる．巣は正確な六角形からなり，たんねんにつくられている．はしにある柄を中心に，背なか側がもりあがる．

大阪ふきんでみられるところ：箕面高山道，吹田，八幡，天見流谷．

P. r. ingrami van der VECHT

沖縄島とその属島にすむ亜種．

ヤエヤマアシナガバチ *P. r. yaeyamae* MATSUMURA

宮古，八重山諸島にすむ亜種．

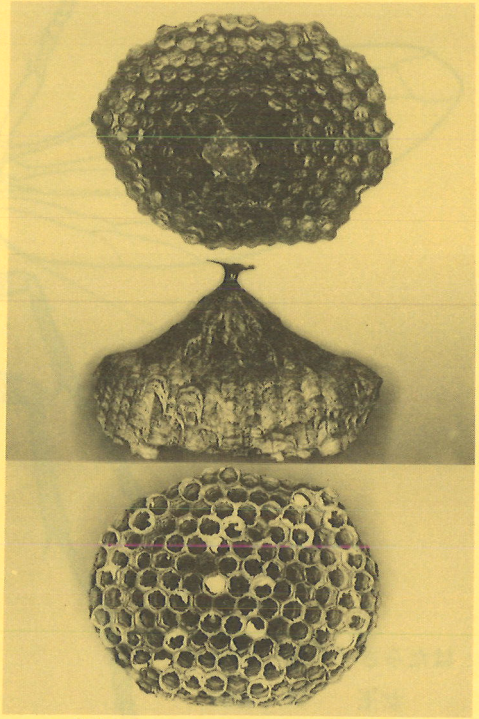
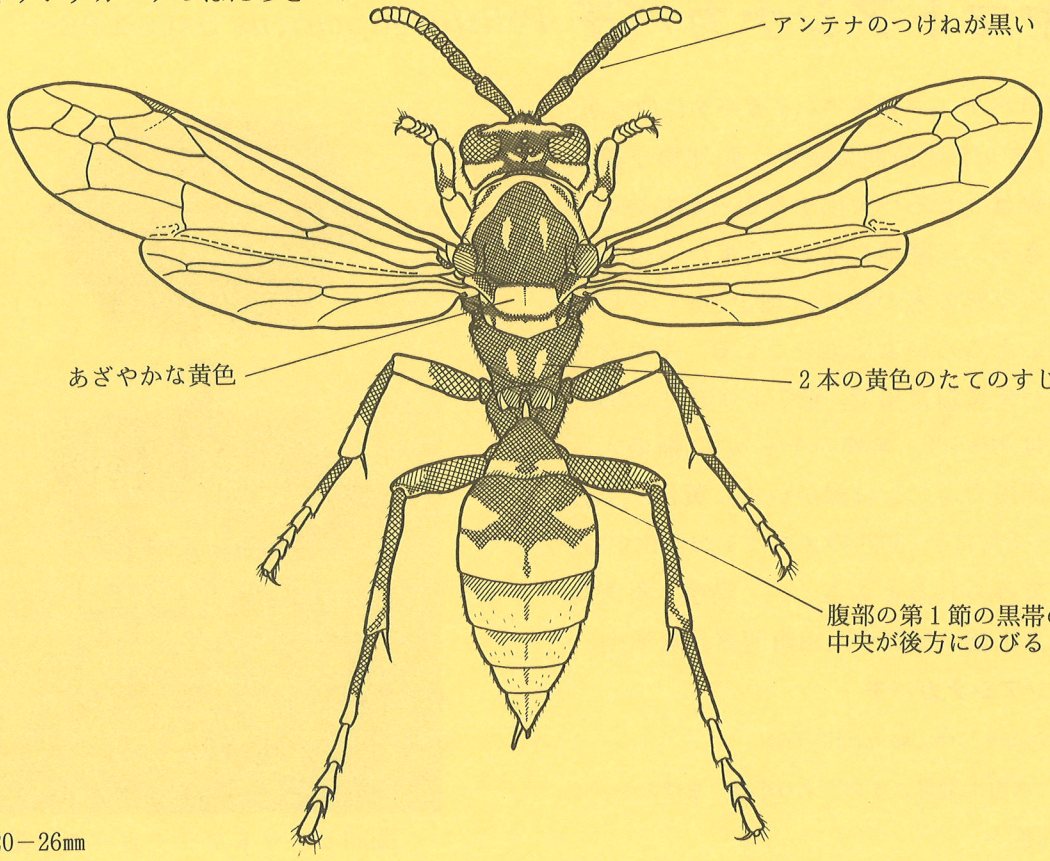


図23：キアシナガバチの巣

図24：キアシナガバチのはたらきバチ



体長　20－26㎜

ヤマトアシナガバチ *Polistes japonicus* SAUSSURE

中型のハチ．一見キアシナガバチに似るが，小さく，アンテナ前面は黄色，腹部第１節黒帯の中央はうしろへ突出することがないので区別できる．丘陵地にすみ，人家からはなれたまばらな林の木の枝の，地上1mくらいまでの低いところによく巣をつくる．キボシアシナガバチに似た巣で，柄がより中央にある．へや数は30～100．まゆのキャップ（蛹の入っている部屋のふた）は緑がかった黄色．７月中ごろ～8月に5～30匹のメスバチが羽化する．

大阪でみられるところ：一ノ鳥居，香芝町畑，二上山麓，長野小山田町西峯，岩湧山．

タイワンアシナガバチ

P. japonicus formosanus SONAN

宮古，八重山諸島にすむ．より小型．まゆのキャップは灰白色．

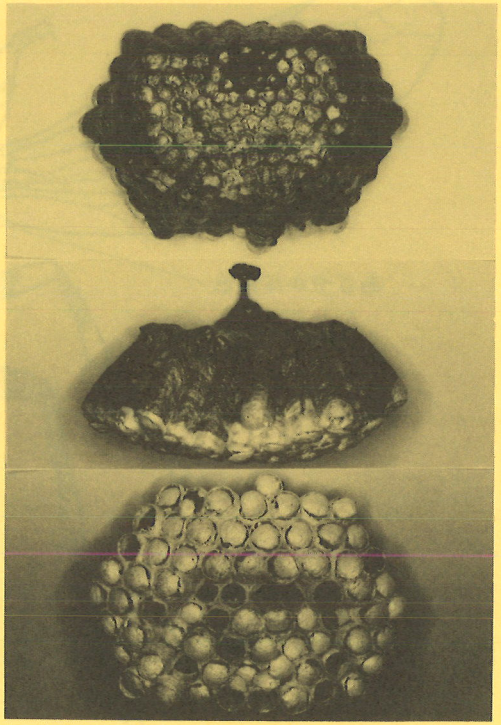


図25：ヤマトアシナガバチの巣

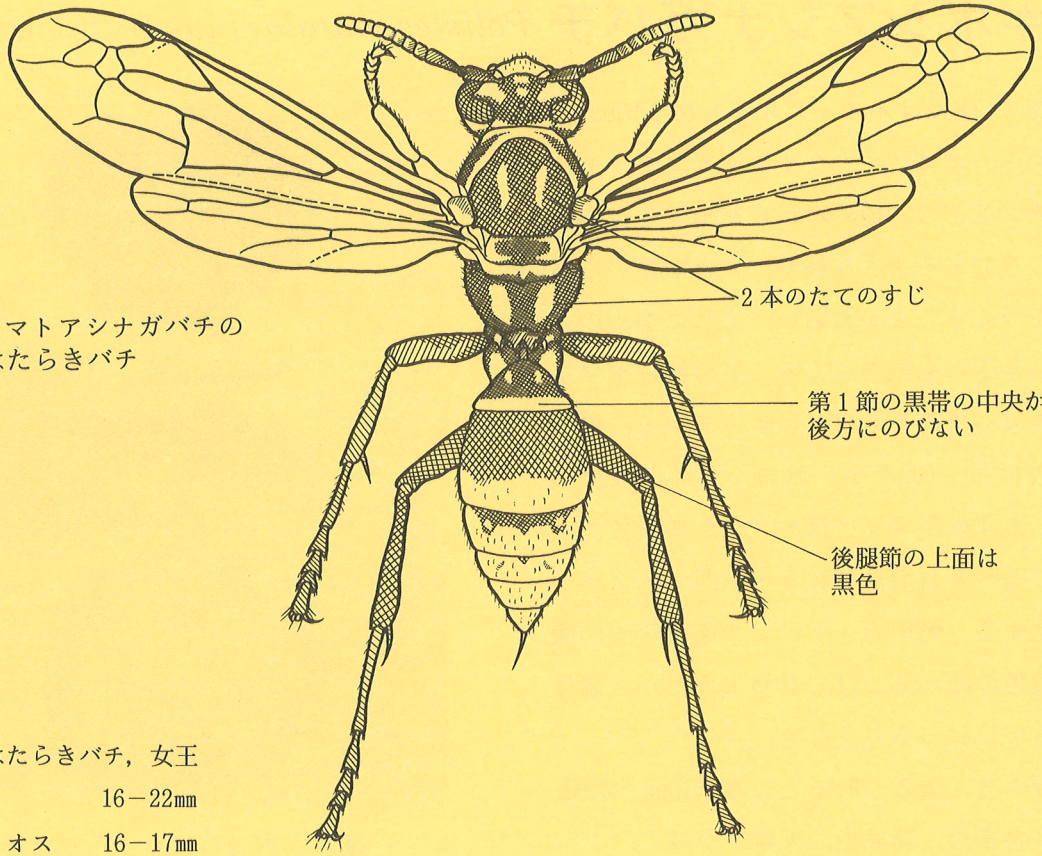


図26：ヤマトアシナガバチの
はたらきバチ

体長：はたらきバチ，女王
16－22㎜
オス　16－17㎜

キボシアシナガバチ *Polistes mandarinus* SAUSSURE

小型で，体長はオス・メスとも14～18㎜．山地にすみ，エゴノキ，ウリハダカエデ，モミジイチゴなどの，地めんから70㎝～５ｍの高いところにある小さな枝や，大きな葉のうらに巣をつくることがおおい．まれに里山の人家ののき下にも巣をつくる．巣の柄はヤマトアシナガバチよりもはしによっている．巣のへや数は30～100だが，おおくは50前後でおわる．まゆのキャップはあざやかな黄色．７月中ごろ～８月おわりに５～30匹のメスバチが羽化する．名前の「キボシ」は胸や前伸腹節の黄色の紋からつけられたようだが，個体によってははっきりしない．

大阪ふきんでみられるところ：箕面，吹田，生駒孔舎衝坂，葛城山，天見，牛滝．

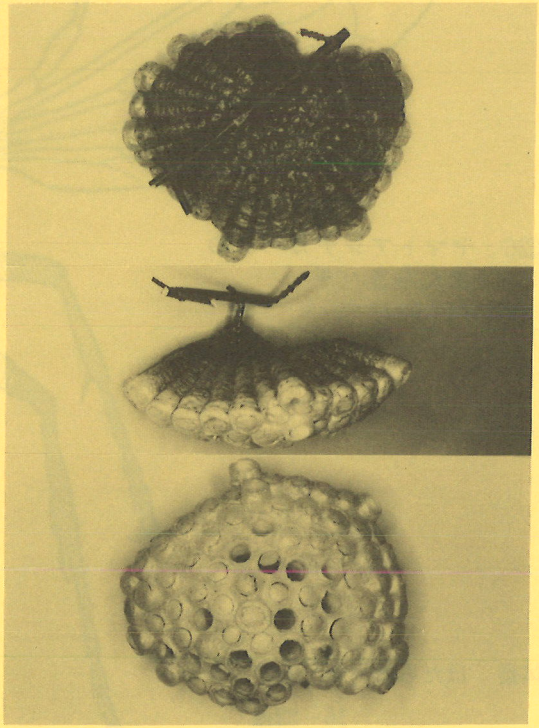
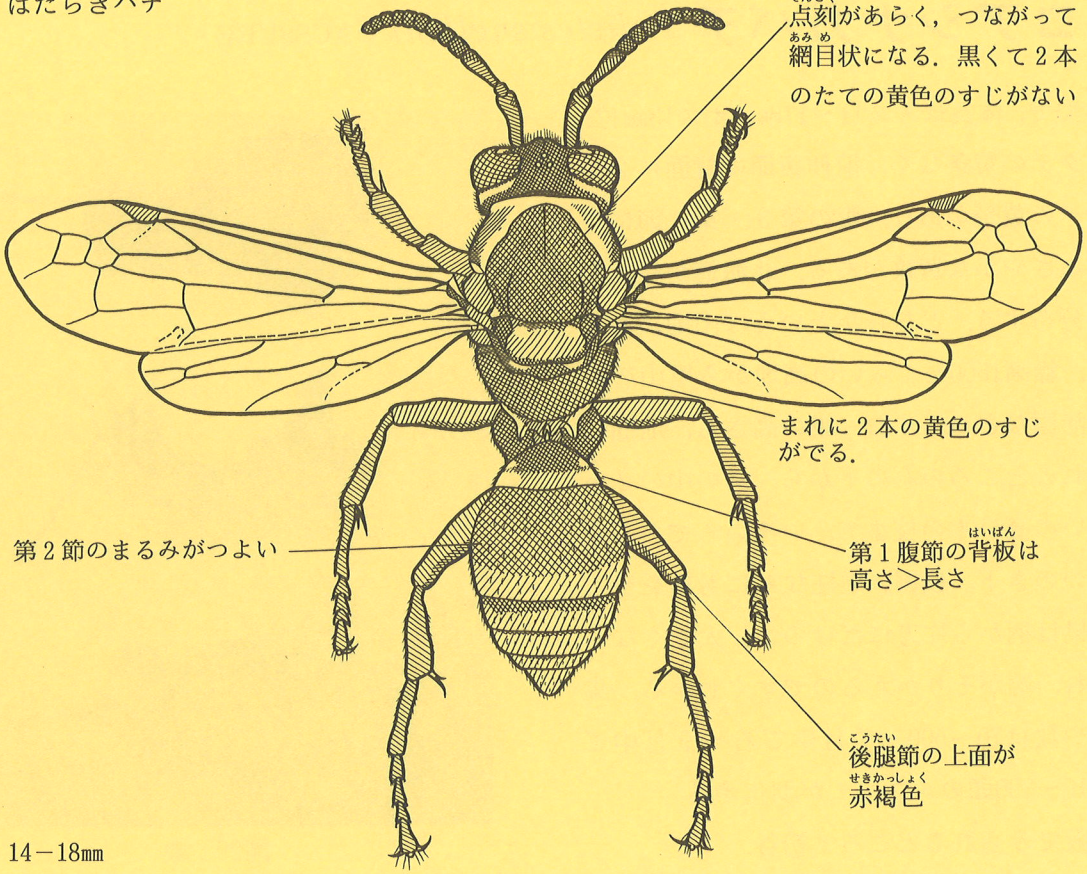


図27：木の枝につくられた巣

図28：はたらきバチ



体長　14－18㎜

コアシナガバチ *Polistes snelleni* SAUSSURE

小型で，体長はメス11～17㎜，オス13㎜位．胸にタテの黄条なく，前伸腹節の背面に２本のタテの黄帯があり，腹の第３・第４節に１対のあざやかな黄紋がある．北海道から九州まで分布する．どちらかといえば山地におおいが，標高1500ｍくらいの高地から里山の村落や河原などにもすむ．巣の高さも，地面すれすれのところの石の下から，林の中の２ｍくらいの高い木の枝まで，いろいろである．人家ののき下，板塀，電柱などにも巣をつくる．巣は柄から片方にだけのび，大きくなるにつれ，端がそりかえるのですぐわかる．巣のへや数は70～500．７月中ごろ～９月中ごろに10～300頭のメスバチが羽化する．

大阪でみられるところ：初谷．

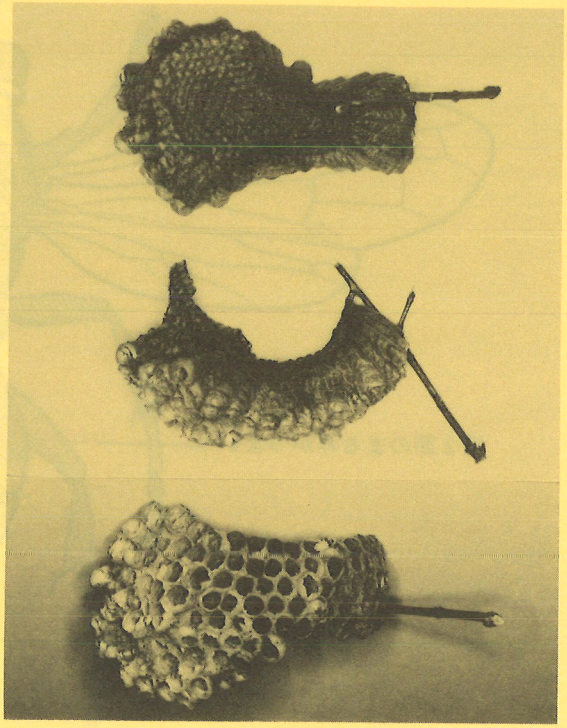
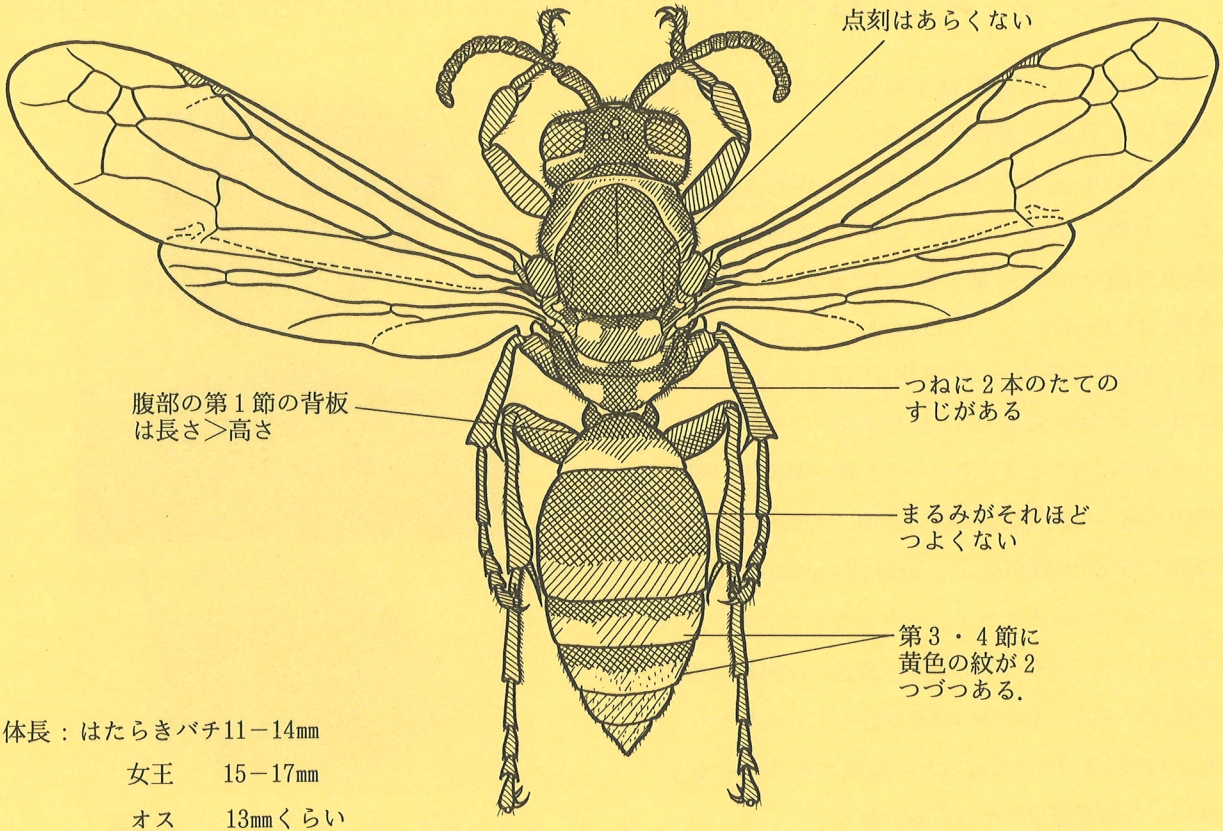


図29：巣

図30：はたらきバチ



体長：はたらきバチ11－14㎜

女王　15－17㎜

オス　13㎜くらい

ホソアシナガバチ *Parapolybia indica indica* (SAUSSURE)

このなかまの分類はまだ完全でなく，新種が発見される可能性がある．

ムモンホソアシナガバチという名まえもある．山地にすむ．メスバチが木のほらなどで集団で越冬する．葉のうらに巣をつくり，へや数は50～400．７月おわり～８月中ごろに20～200匹の新女王が羽化する．コカマキリにオスが食べられることもある．

大阪でみられるところ：一ノ鳥居，高山道，吹田，男山八幡，生駒髪切，岩湧山，牛滝，犬鳴不動谷入口．

コホソアシナガバチ *P. varia* (FABRICIUS)

ヒメホソアシナガバチ，トウヨウホソアシナガバチともいう．やや小型で斑紋は濃色，中胸側に茶色の斑紋がある．木の枝にほそながくたれた巣をつくり，和歌山県下の300m以上の山地にみられるが少ない．兵庫県温泉町からも知られる．

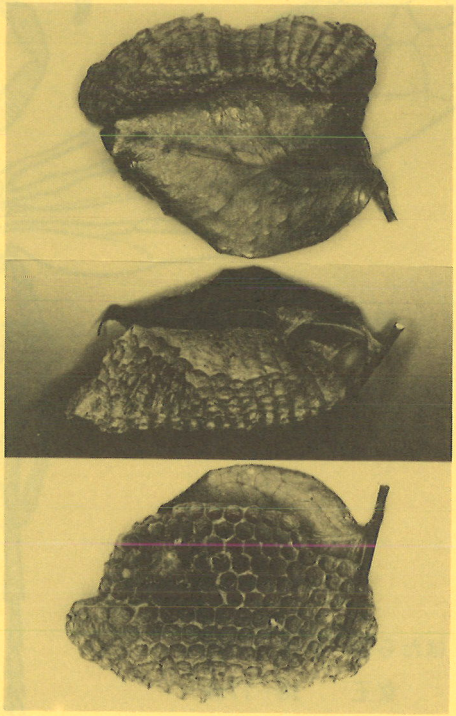
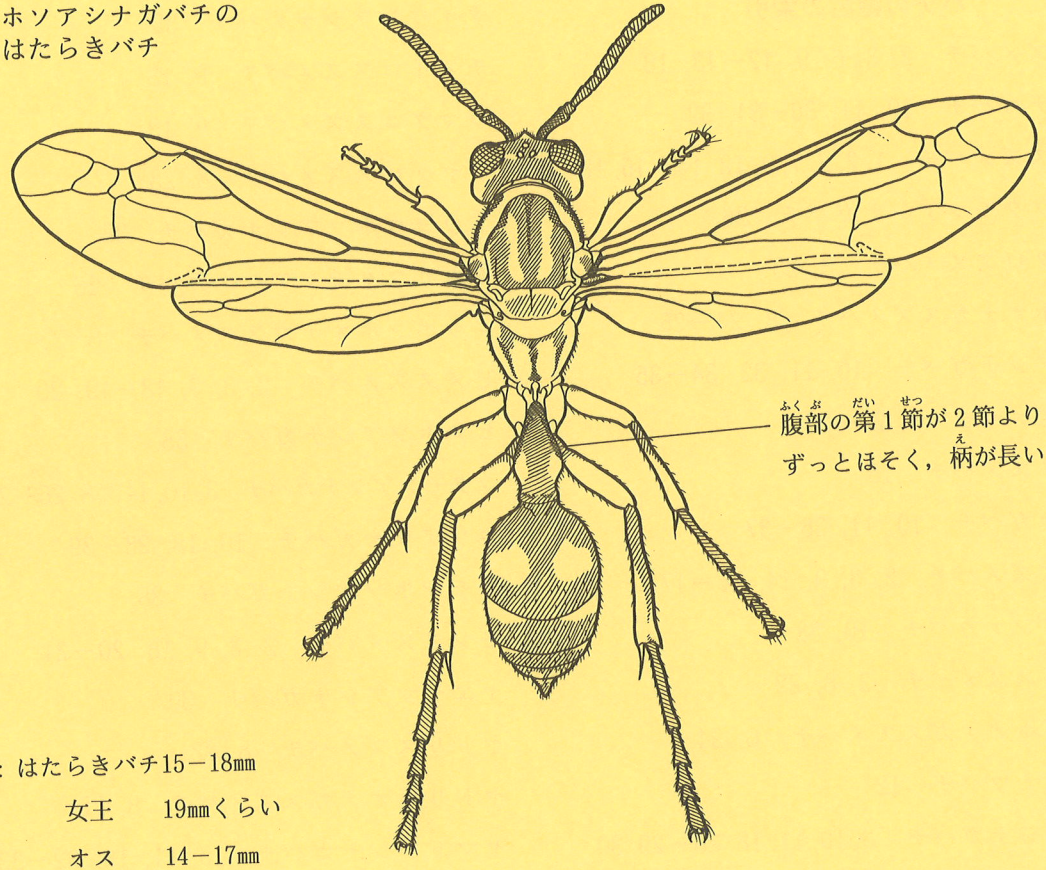


図31：ホソアシナガバチの巣

図32：ホソアシナガバチの
はたらきバチ



体長：はたらきバチ15－18㎜
女王　19㎜くらい
オス　14－17㎜

ハチの種名の索引

オオスズメバチ　2, 3, 6, 9, **12－13**, 18

キアシナガバチ　10, 11, **30－31**, 32

キイロスズメバチ　1, 2, 3, 7, 9, 12, **14－15**, 18

キイロフタモンアシナガバチ　26

キオビクロスズメバチ　8, 23

キオビホオナガスズメバチ　8, **24－25**

キボシアシナガバチ　10, 11, 32, **34－35**

クロスズメバチ　8, **22－23**

ケブカスズメバチ　15

コアシナガバチ　10, 11, **36－37**

コガタスズメバチ　2, 3, 9, 14, **16－17**

コホソアシナガバチ　10, 38

シダクロスズメバチ　2, 8, 22

シロオビホオナガスズメバチ　8, 24

セイヨウミツバチ　12

セグロアシナガバチ　3, 10, 11, 18, **28－29**, 30

タイワンアシナガバチ　32

チャイロスズメバチ　9, 18

ツマグロスズメバチ　9, 19

ツヤクロスズメバチ　8, 23

トウヨウホソアシナガバチ　38

トガリフタモンアシナガバチ　26

ニッポンホオナガスズメバチ　8, 25

ヒメスズメバチ　2, 3, 9, **18－19**, 20

ヒメホソアシナガバチ　38

フタモンアシナガバチ　3, 10, 11, 18, **26－27**, 28

ホソアシナガバチ　10, 18, **38－39**

ムモンホソアシナガバチ　38

モンスズメバチ　2, 3, 9, 18, **20－21**

ヤエヤマアシナガバチ　30

ヤドリスズメバチ　8, 23

ヤドリホオナガスズメバチ　8, 25

ヤマトアシナガバチ　10, 11, 16, **32－33**, 34

参考にした本

足立純一．1979．スズメバチの驚異．神戸新聞出版センター．

足立純一．1981．セグロアシナガバチの一生．神戸新聞出版センター

中村　雅雄．1985．スズメバチのしゅうげき．大日本図書．

日浦　勇．1978．スズメバチとアシナガバチ．大阪の昆虫 陸生篇Ⅰ．大阪市立自然史博物館展示解説第４集，63－67．

松浦　誠．1988．スズメバチはなぜ刺すか．北海道大学図書刊行会．2500円．

松浦　誠．1988．社会性ハチの不思議な社会．どうぶつ社．2800円．

松浦誠・山根正気．1984．スズメバチ類の比較行動学．北海道大学図書刊行会．5400円．

田淵行男．1988．アシナガバチ日本産全種生態．講談社．35000円

山根爽一．1986．フタモンアシナガバチ．日本の昆虫③．文一総合出版．1300円

日高敏隆監修．1976．図解自然観察シリーズ１．昆虫たち．学習研究社．

ミニガイド　No.6　**スズメバチとアシナガバチ**

編著：金沢　至　図：金沢　至，故日浦　勇

印刷：光栄堂印刷株式会社

発行：1990年３月22日

大阪市立自然史博物館

〒546　大阪市東住吉区長居公園1－23

ＴＥＬ　06（697）６２２１

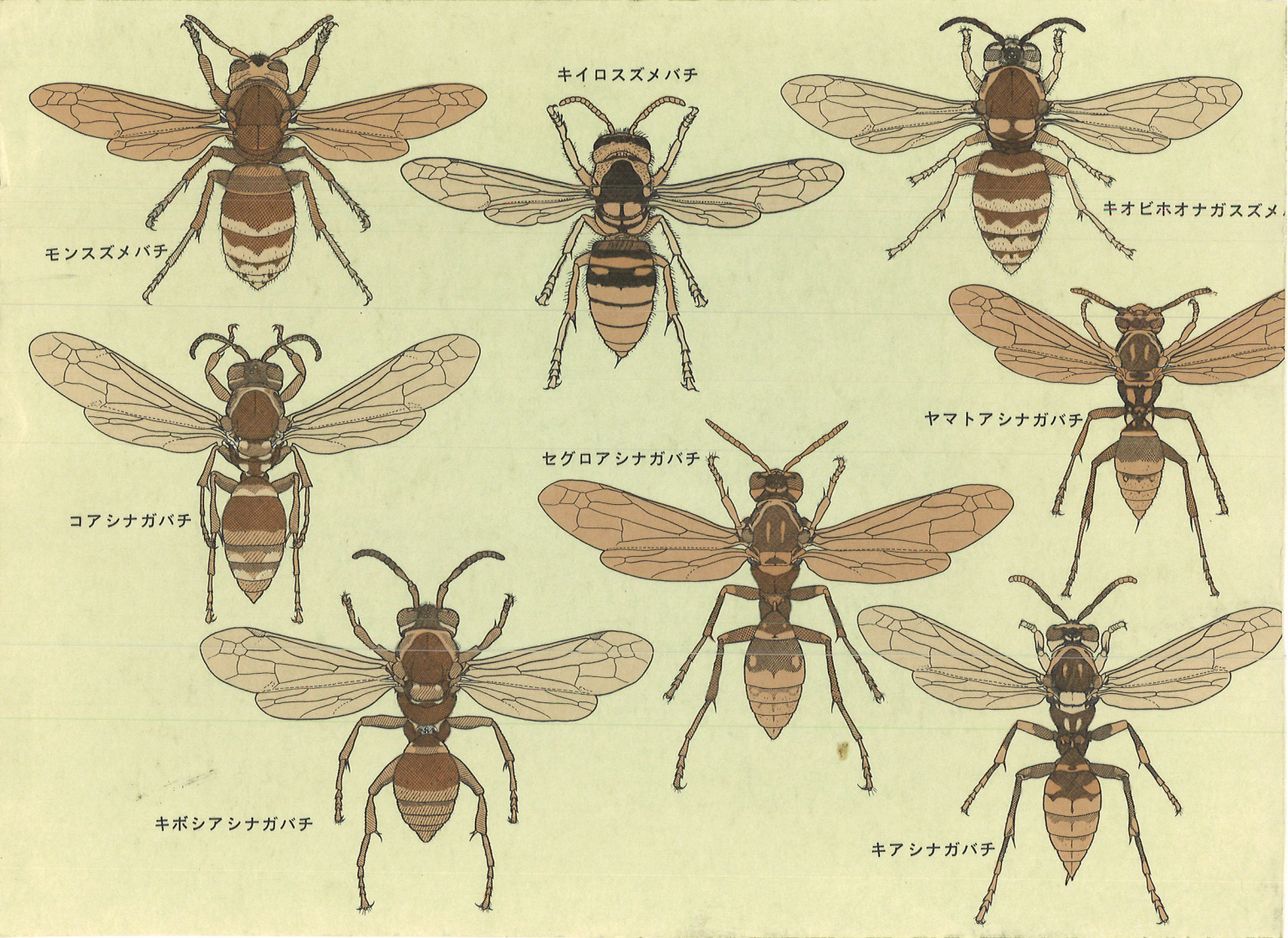
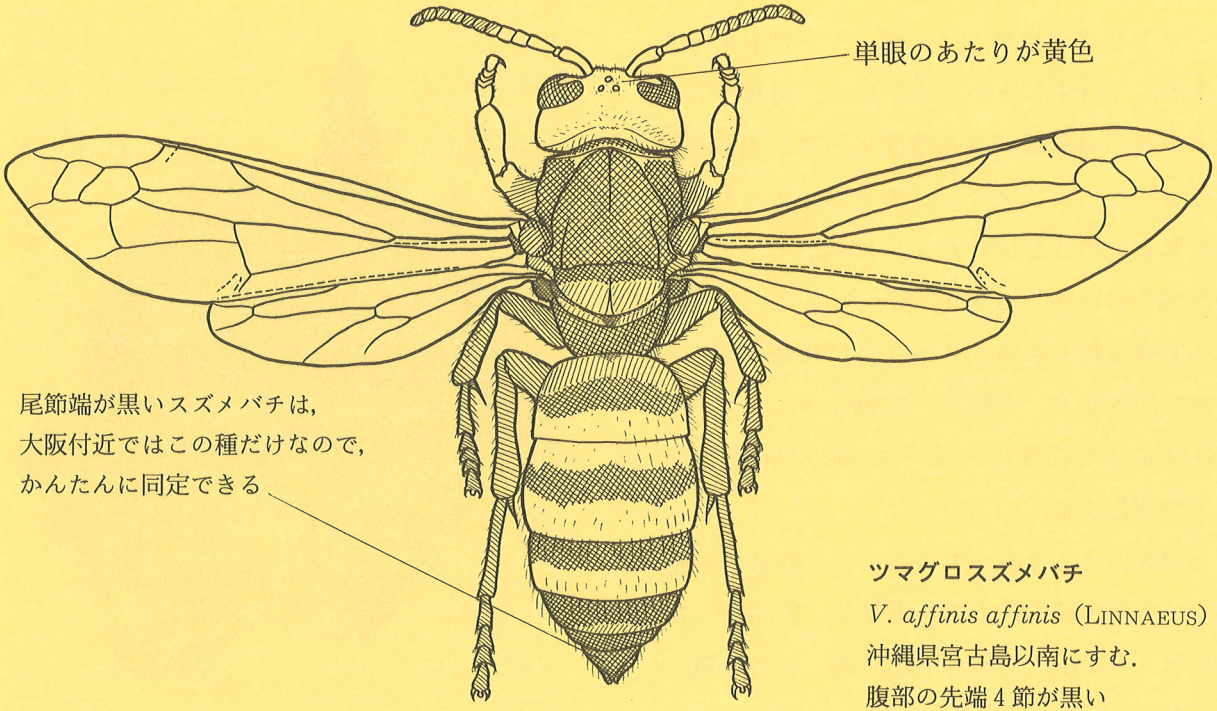

モンスズメバチ
キイロスズメバチ
キオビホオナガスズメ
コアシナガバチ
セグロアシナガバチ
ヤマトアシナガバチ
キボシアシナガバチ
キアシナガバチ

図12：ヒメスズメバチのはたらきバチ



ツマグロスズメバチ

V. affinis affinis (LINNAEUS)

沖縄県宮古島以南にすむ．

腹部の先端４節が黒い

体長：はたらきバチ，女王，
　　オスとも　24－37㎜